

平成 24 年度（2012 年度）

豊中市 食育推進計画年次報告書



えがおも
おいしい
おかずだね!!



今日の食事が、
明日のチカラ。

豊中市
Toyonaka City

■本報告書について

平成 25 年(2013 年)3 月、豊中市食育推進計画(平成 20 年(2008 年)3 月策定)の後継計画として第 2 期豊中市食育推進計画が策定されました。

本書は、食育に関する平成 24 年度(2012 年度)の市内の取り組み等についてまとめたものです。

第 1 章は、本書の第 2 章以降を読み進めていただくために特に必要と思われる事項を、第 2 期豊中市食育推進計画本編より抜粋しました。

第 2 章は、豊中市内で行われた特徴的な取り組みと題して、各取り組みの具体的な内容とコラムを掲載しています。

第 3 章は、豊中市内で実施された、食育に関する各事業について掲載しています。食育の視点で見た各事業の考察と、今後の方向性を見ていただくことができます。

第 4 章は、食育推進貸し出しグッズを掲載しています。必要なグッズがあれば是非ご利用ください。

豊中市食育推進計画のシンボルマークとキャッチフレーズについて

「市民一人ひとりが生涯を通じて健康で心豊かな生活ができることをめざす」
豊中市食育推進計画の実現を図り、市民のみなさまに計画を身近なものと感じていただくために募集をしました。
一般の部、児童の部から選ばれた作品です。(応募総数1,109作品)



シンボルマーク一般の部
松浦 知恵子さんの作品



シンボルマーク児童の部
新田小学校
上村 梨花さんの作品

今日の食事が、
明日のチカラ。

キャッチフレーズ一般の部
榎 寛子さんの作品

えがおも おいしい
おかずだね!!

キャッチフレーズ児童の部
南桜塚小学校
東 千咲季さんの作品

■ 豊中市食育推進計画年次報告書 目次

I. 第2期豊中市食育推進計画について - 1 -

- 1. 基本目標と基本方針 - 2 -
- 2. 世代区分と世代別目標 - 4 -

II. 平成24年度（2012年度）の特徴的な取り組み - 5 -

- 食の育みフォーラム - 6 -
- sumusumu(スムスム)の発行 - 13 -
- 花と緑のネットワークとよなかの取り組み - 18 -
- コラム① 夏休み親子クッキング教室 - 22 -
- コラム② 「すいとん」づくり（蛭池小学校平和登校） - 23 -

III. 各事業の進行状況 - 24 -

- 1. 基本目標別索引 - 25 -
- 2. 所管別索引 - 26 -
- 3. 平成24年度 食育関連事業取り組み一覧 - 28 -

IV. その他（食育関連の情報提供等） - 69 -

- 食育推進貸出グッズ一覧 - 70 -

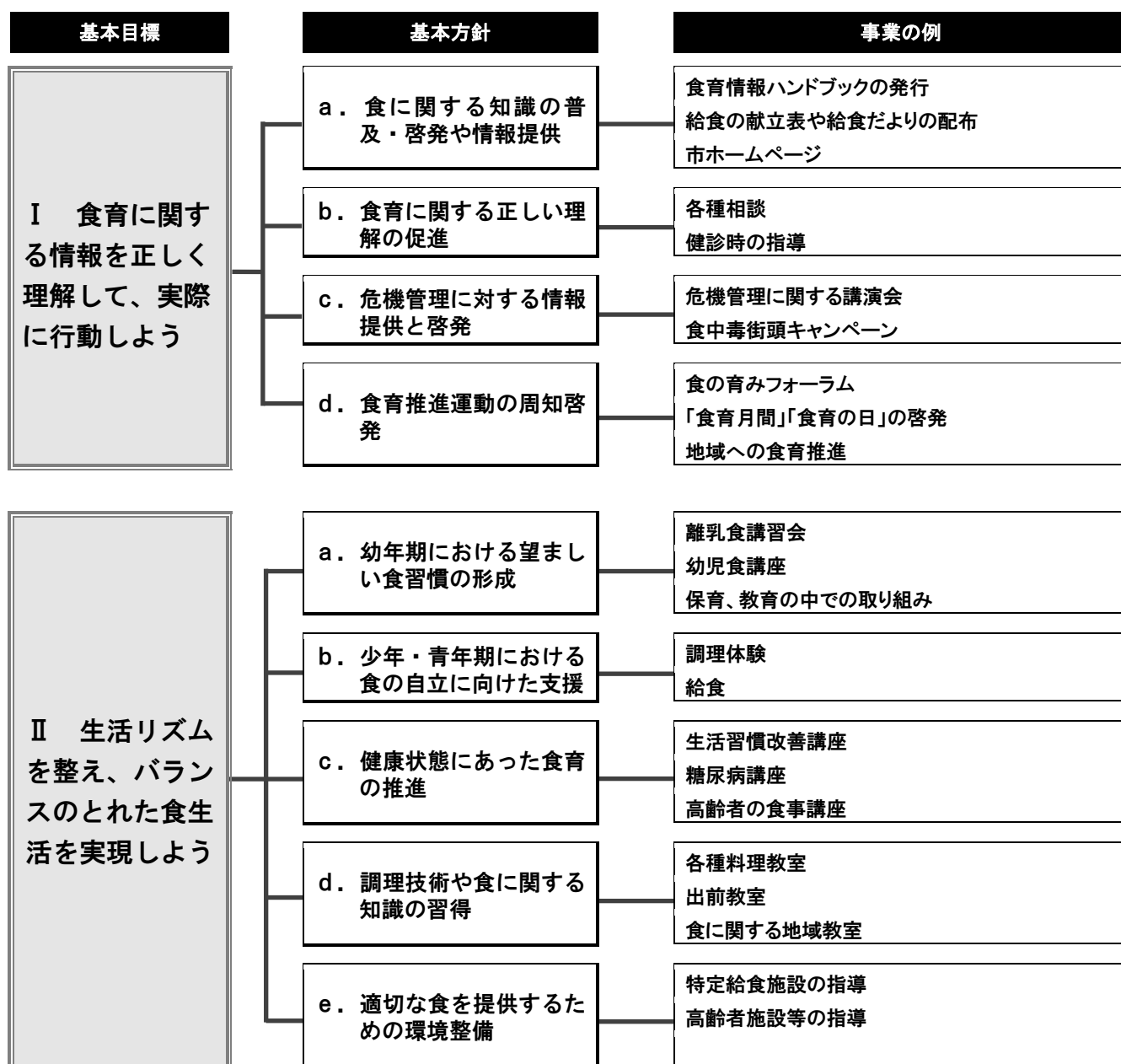
I. 第2期豊中市食育推進計画について



1. 基本目標と基本方針

豊中市食育推進計画では、豊中市の食の現状と課題を踏まえて 5 つの基本目標を掲げており、第 2 期豊中市食育推進計画では、新たに、基本目標ごとの目標達成のための基本方針を設定しました。さらに、基本方針にあてはまる事業の例を関連事業より一部抜粋し、それぞれの項目の関わりが分かりやすくなるように、施策体系図としてまとめました。

【 施策体系図 】



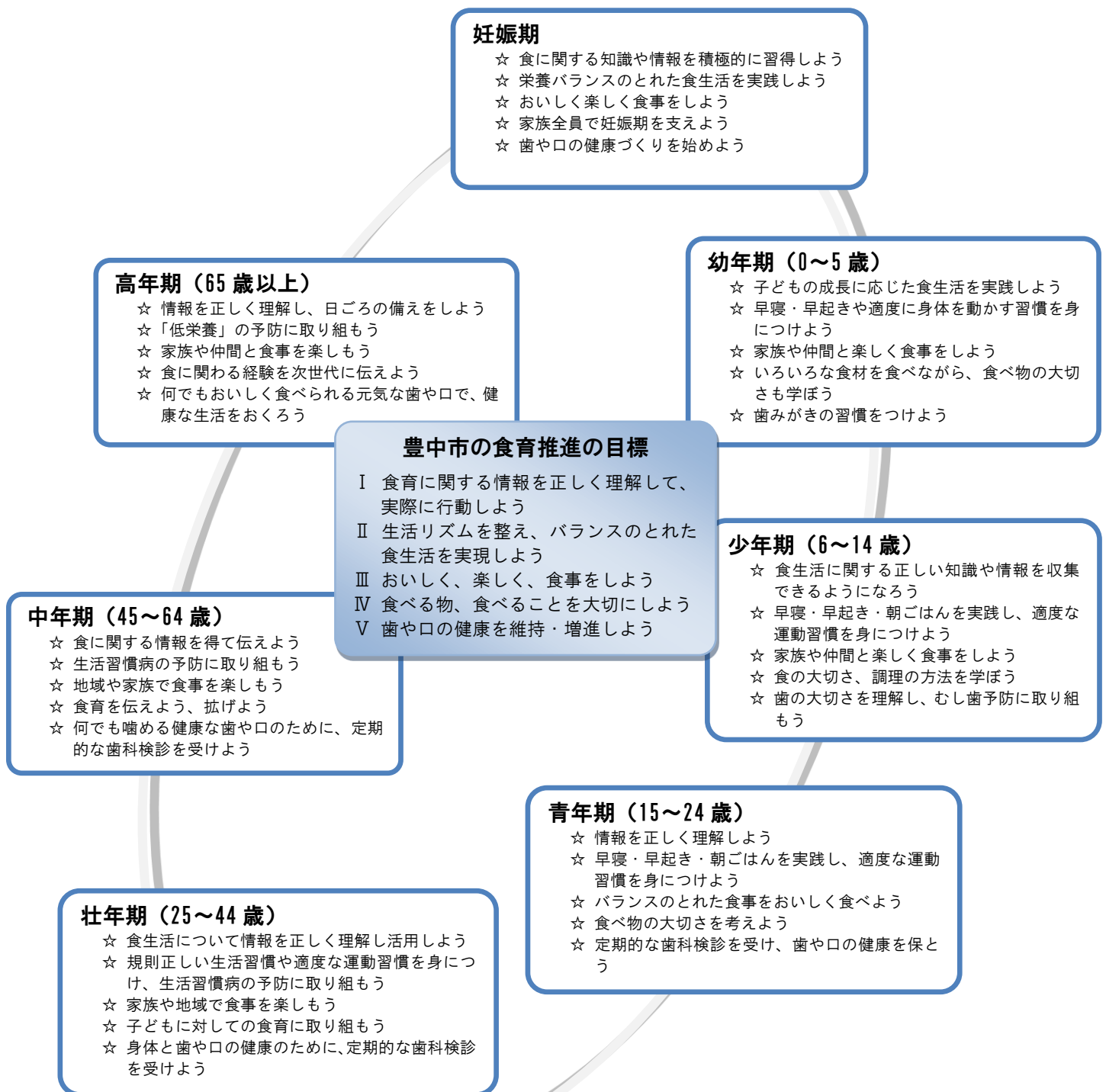
※事業の例の詳細やその他の事業については、

Ⅲ．各事業の進行状況（24 ページ～68 ページ）をご覧ください。

基本目標	基本方針	事業の例
Ⅲ おいしく、 楽しく、食事を しよう	a. 交流を深める場や食事 をする機会の提供	三世代交流事業 高校生とクッキング ささえあい参加型食事会
	b. 楽しい食事の促進	青少年野外活動事業 青少年自然の家主催事業 わくわく食育プロジェクト 地域子ども教室
	c. 食を通じた地域活性化 の促進	豊中おやつ宣言 「うちのお店も健康づくり応援団の店」の普及・啓発
Ⅳ 食べる物、 食べることを大 切にしよう	a. 体験・機会の充実	収穫体験 市民農園 野菜づくり講習会
	b. 環境教育・環境学習の 推進	とよなか市民環境展 エコクッキング sumusumu(スムスム)の発行
	c. 地産地消の推進	「食のリサイクル」 農業祭 地産地消バザー
Ⅴ 歯や口の健 康を維持・増進 しよう	a. 歯科疾患の予防	歯科健診 歯科相談
	b. 歯や口の健康づくりに 関する情報提供と普 及・啓発	よい歯の集い 校区・地区健康教室 すくすくよい歯の教室

2. 世代区分と世代別目標

妊娠期から高年期までの7つの世代に区分して世代別に目標を掲げることで、世代に応じた切れ目のない食育を推進します。行政をはじめ、家庭、保育所（園）、幼稚園、学校、地域、事業者、団体などさまざまな関係機関が協働して食育を推進します。



Ⅱ．平成 24 年度（2012 年度）の特徴的な取り組み



事業名称

食の育みフォーラム



<基本目標と基本方針>

* 継続事業（関連事業一覧 39 ページ）

基本目標－I 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう

基本方針－d 食育推進運動の周知啓発

1 行政の取り組み

<対象世代区分と世代別目標>

- ☒ 妊娠期 ☆食に関する知識や情報を積極的に習得しよう
- ☐ 幼年期(0～ 5 歳)
- ☒ 少年期(6～14 歳) ☆食生活に関する正しい知識や情報を収集できるようになろう
- ☒ 青年期(15～24 歳) ☆情報を正しく理解しよう
- ☒ 壮年期(25～44 歳) ☆食生活について情報を正しく理解し活用しよう
- ☒ 中年期(45～64 歳) ☆食に関する情報を得て伝えよう
- ☒ 高年期(65 歳～) ☆情報を正しく理解し、日頃の備えをしよう

<取り組み一覧掲載内容>

- 所管：保健企画課
- 内容：食育推進計画の周知のため、市民に身近なテーマでフォーラムを開催しています。
- 実績：健康づくり推進委員会と共催し、「まさかの時の食育を考える」と題して、食育から防災を考えることで、減災につなげていくことをめざしたフォーラムを開催しました。
参加者 134 人



1. 目的

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震により、東北地方から関東地方にかけての東日本一円に甚大な被害がもたらされました。東日本大震災と呼ばれるこの被害の経験を通じて、防災・減災の重要性が再認識されたものの、災害対策への個人の具体的な意識はいまだ十分ではない面があります。

本事業は、個人の防災意識を高め、日頃からの準備を促すことで防災・減災につなげることを目的として企画しました。「食育から考える防災」をテーマに、日々の営みに欠かすことのできない「食べること」を中心とした講演や展示などを行い、参加者に防災・減災について考えていただく機会としました。

2. 主催

健康づくり推進委員会、保健企画課が共催 *協力：豊中市立図書館
(市民健康づくりフォーラム と 食の育みフォーラム の合同企画)

3. 内容

○講演会 「まさかの時の食育を考える」(平成 24 年 6 月 12 日開催)

講 師 : 相愛大学客員教授

サカモトキッチンスタジオ さかもと ひろこ 坂本 廣子 さん

講演要旨：台所にあるものを活用した“ちょい足し防災術”

1. 阪神淡路大震災被災の経験を通して

☆都市型災害の際には、食料調達が困難

阪神淡路大震災に被災した時、近くの避難所には早目に支援物資が届きましたが、自宅で避難生活を送っている人にはなかなか届きませんでした。一方で、被災したのが人口密集地(神戸市)であったため、避難所に入れたのは一握りの人だけでした。このような経験を通して、被災した時には、すべて避難所頼みなのではなく、自宅で避難生活を送ることも念頭に置く必要があること、自宅にいるとき最も困るのが飲食品の調達だと痛感しました。



講師の坂本廣子さん

2. “もしも”の時のために

☆いざという時、自分たちの安全は自分たちで守る

【普段から持ち歩くとよいもの】 ☆日頃持ち歩いているカバンの中身に“ちょい足し”

- ◎ 大判ショール … 頭巾、ロープ、風呂敷などの代用品として多用途に使用できる。
- ◎ 笛もしくは鈴 … 助けを呼びたい時に。声を出して助けを呼び続けるのは大変。
- ◎ 水(200cc)、携帯食(飴、塩) … 閉じ込められた時などに、とにかく命を守るために。

上記のもの以外にも、ミミはさみや常備薬、爪切りなど、必要に応じて自分がよく使う物を持っておくのがおすすめ。細々としたものでも、ないと非常に不便だったり、あると非常に役に立ったりするものも多く、安価なもので良いので揃えておくと重宝します。

【家に備蓄しておくといよいもの】 ☆台所にあるものに“ちょい足し”

- ◎ 飲食品 : 水(2ℓ×3日分/1人)、乾物、レトルトパック など
- ◎ 台所にあるもの: ポリ袋、ペットボトル(2ℓサイズ)、キッチンペーパー、ラップ など

☆何よりもまず「水」の確保を

「安全な水」が、健康を保つために不可欠です。食中毒や脱水症状を起こしてしまうと、病院が機能していない時など、場合によっては命取りとなってしまうためです。また、いざ給水車が来ても、水を入れておく容器の工面に意外と困るので、水を清潔なまま溜めておくための工夫も必要です。

コツは2ℓのペットボトルに小分けすること。20ℓのポリタンクに比べて、こどもでも持ち運びができて便利です。また、段ボールなどにポリ袋をかぶせれば水瓶代わりに。



☆ランニング・ストックを意識する

備蓄食料には、米、乾めんなどの主食に加えて、常温保存の可能な乾物、缶詰、レトルト製品などがおすすめです。日頃の食事の中でも利用し、食べた分を補充することで、食品の鮮度を保ったまま無理なく準備することが可能です。同時に、食べ慣れない食品がある時は、食感や風味に慣れておくことで、いざという時にも食べ易くなります。また、食べ慣れた「美味しい」と思うものと一緒に備蓄しておきましょう。心身ともに疲れて大変なときには、好きな食べ物や美味しくて温かいものを食べることが元気を取り戻す手助けになります。



☆食中毒の予防が大切

自宅避難生活を送るにあたって、最も気をつけるべきなのは、常に清潔を保ち食中毒を防ぐことです。

菌を『つけない』『殺す』『増やさない』で食中毒を予防しましょう。ポリ袋を、手袋代わり・ボウル代わりにして、出来るだけ食材には触れずに調理し、必ず加熱処理のうえ食べることを徹底するだけで食中毒のリスクを減らすことができます。電気が戻るまでの間は冷蔵庫が使えないので、特に注意が必要です。

また、食器にラップを乗せて使うことで、洗いを節約しつつ衛生的に食事を摂ることが可能です。



■台所から考える防災

被災から最低 3 日間、物資供給が始まるまでの期間を自分達の力でしのげるよう、自宅に備蓄しておくべきものを展示しました。水は7日分あるとさらに安心です。

例) 水、米・乾めん、レトルト食品、カセットコンロ など

☆家屋の安全の確認を

被災後を過ごす知恵を生かすにも、まずは災害から自分の命を守ることが大前提です。家屋の倒壊等で命を失ってしまうことのないように、まずは今住んでいる家が災害に耐えうるかどうか、ぜひ確認しておいてほしいと思います。

3. 結びに

飲食品、ポリ袋やラップなど、必要・便利と知っていても、いざという時に手元になくても意味がありません。日頃から切らず置いておくことを心掛けてください。また、家庭によって必要なものは異なるので、ご家族で話し合っ準備をしてください。災害はいつやってくるかわかりません。命を守るためには、日頃からの心掛けが何よりも大切だと覚えておいてほしいと思います。

○ロビー展示・体験

①坂本先生の持ち物コーナー



■ 普段から持ち歩くと安心なもの

講師の坂本先生が日常的に持ち歩いているバッグの中身を再現。健康づくり推進員の方にクイズを出題していただき、その持ち物の使い方や必要性を知っていただきました。

左) 持ち物コーナーの様子

中央) 展示品：塩や飴(非常食)、常備薬、ポリ袋など

右) 展示品：笛や鈴(自分の居場所を知らせる物)など



②紙食器づくりコーナー



■ 使い捨て紙食器

ちらしや新聞紙などで簡単に作れる使い捨ての紙食器です。

紙食器にラップをのせ、上に料理をよそいます。後片付けは、ラップか食器を捨てるだけでOK。食器を洗う手間が省けるだけでなく、水を極力使わず衛生的に食事を摂ることができるため、被災時など水が不足しがちな時に重宝します。

コップ型、船型などいくつか種類があり、用途に合わせて使い分けが可能です。

スタッフが手ほどきしながら、参加者の方に実際に作っていただきました。

③図書資料コーナー



豊中市立図書館にご協力いただき、食育や防災関係の資料を展示しました。

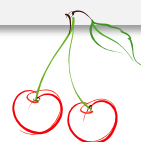
多くの参加者が閲覧し、8人に対し30点の資料を会場で貸し出しました。



④「食べて応援しよう！」コーナー



近畿農政局からポスターの提供を受け、「食べて応援しよう！」のポスターを会場に掲示し、東日本大震災で被災した地域や農家などへの支援を呼びかけました。



4. 総 括 ・ 考 察

フォーラム当日は134人の参加がありました。

アンケートを提出していただいたすべての人から「満足」もしくは「やや満足」と回答いただき、自由記載欄には、「実体験をもとにした講演だったので説得力があった」「分かりやすく、ためになった」「持ち物リストが参考になった。家に帰ったら準備しようと思った」「手軽で簡単できる準備がたくさんあってやってみようと思った」「普段から備えることの大切さが分かった」という声がみられたことから、参加者にとって満足度の高い事業となったようです。

防災力を高めていくためには、市民自らが感じ考え行動するきっかけをすること、また、市民が防災を自分のこととして考えられるよう一人ひとりの生活場面に引き寄せられる具体性があることなどが重要であると考えています。今後も様々な市の取り組みの中で身近な例を示しながら、防災力を高めるための食育情報の提供を行っていきます。

2012. 6. 16 産経

料理研究家で相愛大学客員教授の坂本廣子さんを講師に招いた講演会「まさかの時の食育を考えよう」が、豊中市岡上の町の市すこやかプラザで開かれ、市民約130人が聴講した。

食から考える防災



講演する料理研究家の坂本廣子さん —豊中市すこやかプラザ

普段の食から防災について考える機会もあつと、市健康づくり推進委員会などが開催した。坂本さんは阪神大震災で被災した経験から水、塩、あめ玉といった飲食品をはじめ、笛、鈴といった自分の位置を知らせるものなどをかばんに入れて持ち歩いていることを話したり、食品、水などの備蓄はもちろん、災害時は常に清潔に保って食中毒を予防することも大切と強調。「防災グッズは常に切らさないことが大切。各家庭に必要なものが異なるので、話し合っ準備してほしい」と締めくくった。

料理研究家・坂本さん、豊中で講演

また岡上町のロビーには、防災関係の書籍の展示や災害時に役立つ紙で作る食器づくりなどのコーナーも設けられた。同市鶴野町の奈須朋子さん(54)は「自分の家庭には何が必要かを考えて用意することが大切と感じた」と話していた。

講演について、新聞にも掲載されました！

左) 2012年6月16日 産経新聞

下) 2012年6月18日 日日新聞

食を通し防災考える

相愛大客員教授坂本さんが講演



普段から用意している防災グッズを紹介する坂本さん

【豊中市】料理研究家で相愛大学客員教授の坂本廣子さんを講師に招いた講演会「まさかの時の食育を考えよう」が12日、豊中市すこやかプラザ(岡上の町2丁目)で開かれた。参加者が災害時の備えなど、食を通じた防災について理解を深めた。

坂本さんは、阪神大震災の時に地元の神戸市で被災した経験を踏まえ、普段から水やあめ玉などをかばんに入れて持ち歩いていることを紹介し、食品や水などの備蓄はもちろ

ん、災害時には常に清潔に保って食中毒を予防することの必要性も指摘した。さらに「防災グッズは、常に切らさないことが大切。各家庭で必要なものも異なるので、きっちりと話し合っ準備をしてください」と呼び掛けた。

(藤林敬治)

事業名称

sumusumu（スムスム）の発行



<基本目標と基本方針>

* 新規事業（関連事業一覧 62 ページ）

基本目標－Ⅳ 食べるもの、食べることを大切にしよう

基本方針－b 環境教育・環境学習の促進

8 行政の取り組み

<対象世代区分と世代別目標>

- | | |
|----------------|----------------------------|
| ☑ 妊娠期 | ☆食に関する知識や情報を積極的に習得しよう |
| ☑ 幼年期(0～5 歳) | ☆いろいろな食材を食べながら、食べ物の大切さも学ぼう |
| ☑ 少年期(6～14 歳) | ☆食の大切さ、調理の方法を学ぼう |
| ☑ 青年期(15～24 歳) | ☆食べ物の大切さを考えよう |
| ☑ 壮年期(25～44 歳) | ☆食生活について情報を正しく理解し活用しよう |
| ☑ 中年期(45～64 歳) | ☆食に関する情報を得て伝えよう |
| ☑ 高年期(65 歳～) | ☆情報を正しく理解し、日頃の備えをしよう |

<取り組み一覧掲載内容>



○所管：減量推進課

○内容：収納のコツ・豊中市内で 1 日に排出されるごみの量・ごみの減量やリサイクルに取り組む団体の紹介など、様々な視点からごみの減量について掲載している小冊子です。

食育関連では、食材の無駄を減らすエコレシピや豊中市内で 1 日に排出される手つかずの食品の量などを掲載しています。

豊中市提案公募型委託制度により、NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 と協働で作成しました。

○実績：発行 4000 冊
配布先 環境展
リサイクル交流センターでの講座参加者
公共施設での配布 など

1. 目的

ごみの排出を少しでも減らすために、ごみの減量方法やリサイクルについて様々な切り口から考える環境ハンドブック「sumusumu」。普段の生活の中から出来るごみの減量について、分かりやすく掲載されています。食品ロスの削減をめざすための取り組みとして、食育にも触れていただいています。

フルカラー16ページ。

2. 所管課

減量推進課

3. 内容

○発行の背景：第3次豊中市ごみ減量計画（2020ごみ減量プラン）

基本理念は「協働とパートナーシップに基づき『もったいない』のここで作る循環型社会」

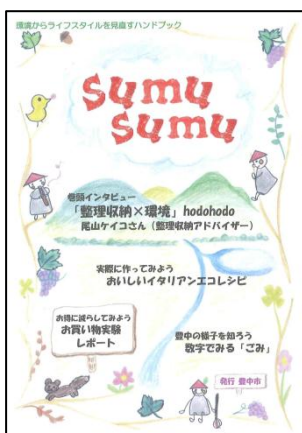
基本理念実現に向けて、3つの基本方針と6つの基本施策に基づく取り組みを実施。

6つの基本施策のひとつに 4. 食品ロス・ゼロに向けた取り組み（とよなか食べきり運動の展開）があり、具体的な取り組みとして （4）食育の推進 を掲げています。

◆現状と課題

平成17年度（2005年度）に「食育基本法」が施行され、当市でも食育推進計画等が策定されています。関係部局において様々な啓発事業や講座・セミナー等が開催されるとともに、地域、市民団体や事業者、保育所、幼稚園、学校、家庭等による主体的な食育に関する取り組みが進んでいます。「食」を考えるうえで重要な視点となる「食育」の観点からも働きかけることで、市民の食品ロス削減意識の浸透をめざします。（2020ごみ減量プランより抜粋）

○sumusumuについて



sumusumu 表紙

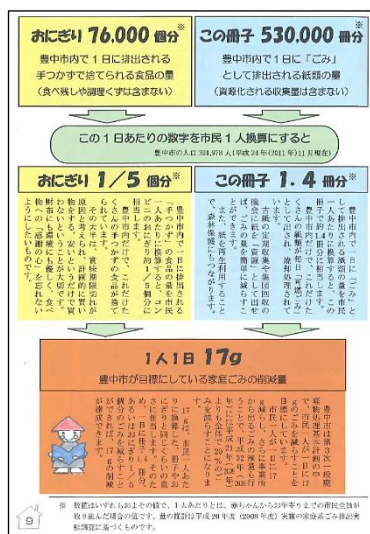
■なぜごみの減量が必要なのか？

環境の問題として、ごみの大量排出は依然として課題となっています。ごみは、焼却処理を行うと必ず焼却灰を発生させるため、焼却灰を埋立する処分場が必要となります。大量廃棄→大量焼却→大量埋立の繰り返しにより、最終処分場の残余容量不足が懸念されており、現在の処分場を長く使うためにも、ごみの減量が必要です。

また、環境に配慮した「3R行動」の優先順位は、**リデュース > リユース > リサイクル**の順とされています。リサイクルを行うのにもエネルギーが必要であるため、大量生産→大量消費→大量リサイクルよりも、ごみの排出量自体を減らす方が環境負荷の低減には有効です。

1) 食育の観点から考えるごみの減量

① 豊中市における食品ロスの現状



平成 20 年度(2008 年度)、家庭系ごみ排出実態調査が実施され、家庭から排出されるごみの量や種類、割合が調査されました。結果、大量の手つかず食品がごみとして廃棄されていることが判明しました。

豊中市から 1 日に「ごみ」として排出される手つかず食品の量は
おにぎり 76,000 個分 = 1 人当たりおにぎり 1/5 個分

注※「手つかず食品」に、食べ残しや調理くずは含まない
※1 人当たり = 赤ちゃんからお年寄りまで市民全員
(391,978 人:平成 24 年度の人口)が取り組んだ場合
※数値は、平成 20 年度(2008 年度)家庭系ごみ排出実態調査に基づく推計量

食品の無駄を少しでも減らすためには、すでに家にあるものを把握してから必要なものだけを買う、安いからといって買いすぎない、調理方法を工夫し食材を食べきるなど、各家庭での取り組みが必要不可欠です。ひとりひとりの少しの工夫が、今出ている多くの食品の無駄を減らします。

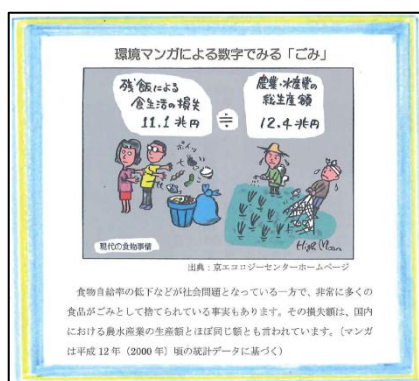
豊中市では、ごみを少しでも減らすため、削減量の数値目標を、

豊中市民 1 人が 1 日に 17g (おにぎり 1/5 個分相当の重さ)の家庭ごみを減らすこと

として掲げています。

参考 国内における食品ロスの現状

(出典：食品ロスの現状(2012 年)/農林水産省)



日本における年間の食品廃棄量はおよそ 1,800 万トン。

※年間の食品消費量は約 8,500 万トンであり、約 2 割が廃棄されていることとなります。

うち、食品ロスは年間 500 万トン～800 万トンであり、その損失額は、国内の農水産業の生産額とほぼ同額と考えられています。

※日本のコメの年間収穫量(約 850 万トン)に匹敵し、世界の食糧援助量(約 390 万トン)を大きく上回る量です。また、日本の食料自給率は 39%であるため、食品の大半を輸入に依存している一方で、食べずにごみとして大量に廃棄していることとなります。

食品ロス 500 万トン～800 万トンのうち、家庭から生じる量は 200 万トン～400 万トンと、食品ロスの約半数は家庭から発生しています。

※手つかず食品が約 2 割を占め、うち 4 分の 1 は賞味期限前にもかかわらず廃棄されています。また、調理の際の過剰除去(野菜の皮むきや脂身の取り除きなど)も、家庭からの食品ロスが多い原因の一つとなっています。食材を食べきること、調理の際には出来るだけ取り除く部分を減らすことが大切です。

② 食材(生ごみ)の無駄を減らす「エコレシピ」

調理の際に取り除く部分を少しでも減らして生ごみの排出量を減らすと同時に、通常廃棄されてしまう部分に含まれるたくさんの栄養を上手においしく取り入れられる、環境にも体にもやさしい料理のレシピです。



監修：豊中地域活動栄養士会トゥディ

※過去のエコレシピは、市のホームページでも閲覧可能です。



★エコなワンポイント

各レシピには、通常廃棄されてしまう部分に含まれている栄養についての解説や、レシピのこういった点がエコなのか等の補足説明が付いています。

エコレシピの料理は、エコクッキング参加者からも「おいしい」と好評を得ています。

減量推進課では、市民の方の「もったいない」の意識を高め、食品ロスの削減について考えてもらうため、エコクッキング(P.61 参照)を定期的の実施しています。エコレシピは、エコクッキングの際に使用したもので、豊中地域活動栄養士会トゥディに監修をお願いしています。

エコレシピ (平成24年(2012年)9月21日実施分)

<ベース料理>

1. イタリア風エコ鍋

他の料理のベースとなる料理。冷蔵庫に余っている野菜を入れて煮込むだけでOKなので、手軽に作る事ができ、中途半端に余ってしまった食材の有効活用もできます。鍋料理なのでエネルギーの節約にも。

<アレンジ料理>

2. エコトマトクリームパスタ

3. エコピザ

パスタのソース、ピザのソースにエコ鍋のだしを使用します

☆エコ鍋のアレンジ以外のエコレシピ

・玉ねぎ皮のスープ

いつもは捨ててしまうたまねぎの皮も、よく洗って煮出せばおいしいスープの素になります。捨てずに利用することで、皮に含まれる栄養も摂取できます。

・エビ殻と豆腐のおとし揚げ

エビも、工夫次第では殻までおいしく食べることが可能です。エビを使って料理をする際には、ぜひもう一品。



エビ殻と豆腐のおとし揚げ

野菜の皮や芯など、普段は捨ててしまいがちな部分にも、栄養が豊富に含まれている場合があります。エコレシピでは、廃棄部分を活用して、おいしく健康的な食事をとっていただきながら、生ごみの排出を減らして環境負荷の低減につなげていくことをめざしています。

2) その他の内容

③ 整理収納から考える減量・資源の循環

家の整理収納を見直して本当に必要なものを把握することで、無駄な買い物を防ぎ、余分なごみの排出を減らします。

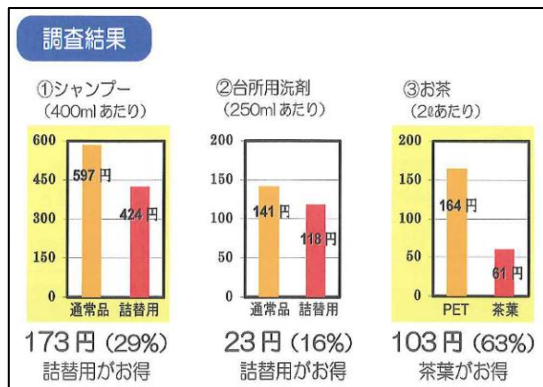
家にあるものを見直して買い方を工夫することは、収納についてだけでなく、食材の買いすぎや重複して食材を購入してしまうことを防止することにも役立ちます。

買い物をする時から、資源の循環について思いを巡らせることが大切です。



整理収納アドバイザー尾山ケイコさんのインタビュー記事

④ ごみを減らしてお得に節約



調査協力：とよなか消費者協会
(左)調査結果 (上)調査方法

とよなか消費者協会協力のもと、詰め替え製品を利用したり、ペットボトルのお茶を自分で沸かすとどのくらいの節約になるか、という調査を実施。結果を具体的な金額で提示することで、かかる費用の差が簡単に比較でき、どちらがより経済的か実感を持ってもらいやすくなっています。

調査結果から、簡易包装の商品を選んで買い物をすることは、お財布にやさしいごみの減量方法であることがわかります。環境にやさしく消費者にもメリットのある商品を選んで買い物をすることも、ごみ減量への第一歩です。

4. ま と め

食品の廃棄といえば、飲食店や食品メーカー、小売店といった事業所から大量に出されている印象が強くあります。実際に、事業所から出る食品ロスは少ないものではありませんが、それは、“24 時間いつでも”食べたいものを食べられるようにしておいてほしいという私たちの欲求も原因の一つだということを忘れてはいけません。また、食品ロスのうち約半分は家庭から出ており、私たちの何気ない行動がごみとして出される食品を確実に増やしています。食べること、食材を無駄にしないように工夫することなど、日頃の生活の中で私たちにできることはたくさんあります。

sumusumu を通して、たくさんの食品が無駄にされている現実を知り、より効率的に、より大切に食べ物を消費することの大切さについて学ぶことができます。くらしや食生活を見つめ直し、出来るところからごみを減らすことが、環境や安定した食の未来につながっていきます。

事業名称

花と緑のネットワークとよなかの取り組み



<基本目標と基本方針>

*継続事業（関連事業一覧 61 ページ～65 ページ）

基本目標－Ⅳ 食べるもの、食べることを大切にしよう

基本方針－b 環境教育・環境学習の促進（b-6，b-12～20）

c 地産地消の推進（c-3）

<対象世代区分と世代別目標>

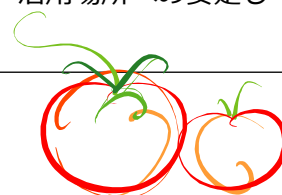
- | | |
|---|----------------------------|
| ☒ 妊娠期 | ☆食に関する知識や情報を積極的に習得しよう |
| ☒ 幼年期(0～5歳) | ☆いろいろな食材を食べながら、食べ物の大切さも学ぼう |
| ☒ 少年期(6～14歳) | ☆食の大切さ、調理の方法を学ぼう |
| ☒ 青年期(15～24歳) | ☆食べ物の大切さを考えよう |
| ☒ 壮年期(25～44歳) | ☆家族や地域で食事を楽しもう |
| ☒ 中年期(45～64歳) | ☆食育を伝えよう、広げよう |
| ☒ 高年期(65歳～) | ☆食に関わる経験を次世代に伝えよう |

<取り組み一覧掲載内容>（一部抜粋）

○所管：NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21・花と緑のネットワーク
公園みどり推進課

○内容：生ごみ・剪定枝堆肥の配布・頒布（Ⅳ－b－6）
市が、学校給食センターから出る調理くずや給食の食べ残しに、公園や街路樹から出る剪定枝をチップ化したものを混合したい肥化しています。できあがったたい肥（とよっぴー）は、アジェンダ 21・花と緑のネットワークが土壌改良材として、学校・保育所、市内などの農家のほか、各種イベント等で市民などに配布・頒布しています。

○実績：年間約 120 トン
豊中市の学校給食から出る生ごみ全量のたい肥化に成功し、活用場所への安定した供給に努められています。



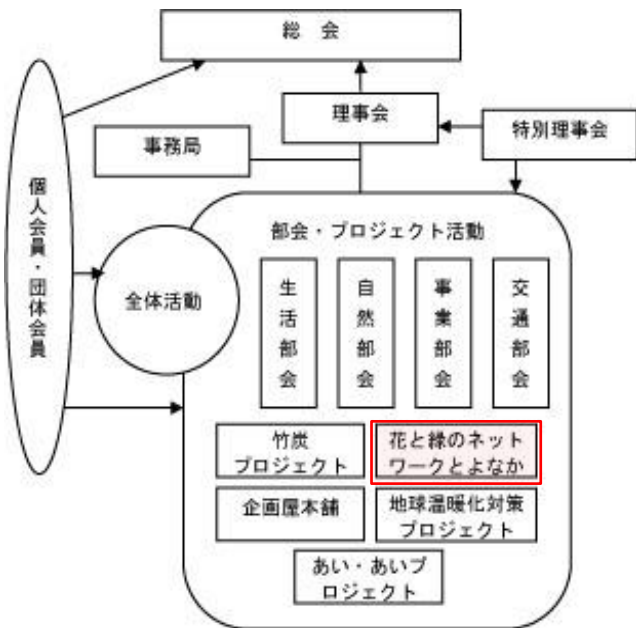
1. 活動団体

花と緑のネットワークとよなか

とよなか市民環境会議アジェンダ 21 のプロジェクト活動に位置付けられている NPO 法人。

生ごみ・剪定枝堆肥化事業を通して、食の循環や環境教育、地域のネットワークづくりを行っています。

「とよっぴー」(たい肥)を中心に、各種講習会や農体験の活動支援、地産地消の促進など、「食」に関する取り組みも多く実施されていますので、関連事業一覧に掲載されている事業を中心にご紹介させていただきます。



とよなか市民環境会議アジェンダ 21 組織図

(とよなか市民環境会議アジェンダ 21ホームページより)

★「とよっぴー」(たい肥)について

「とよっぴー」とは、市が、学校給食の調理くずや残渣に公園や街路樹から出る剪定枝のチップを混合してつくったたい肥(土壌改良材)のこと。大量生産・大量消費・大量廃棄の一方通行型社会システムを改め、資源循環型の地域社会を形成するため、2002年4月に「緑と食品のリサイクルプラザ」(原田中)で生まれました。

「とよっぴー」は、2002年4月1日、公募選考で決定した愛称です。豊中の「豊」と肥料の「肥」をとって「豊肥」(とよっぴー)です。

(花と緑のネットワークとよなかホームページより)



2. 活動内容

【 農体験・環境学習機会の提供 】

◎ 農と食の体験活動(Ⅳ-b-16)

小学校等菜園支援: 校内に田圃や菜園を設けている小学校等に出向き、土作りや植え付けなど生育管理に必要な支援・アドバイスをを行います。食育出前講座(20ページ参照)と同時に実施することの多い活動です。

とよっぴー農園: とよっぴー農園は、緑と食品のリサイクルプラザに併設されている農園で、様々な農体験活動実施の場となっています。

主に親子を対象として、作物の植え付け・栽培・収穫などの農体験・食育体験活動を実施しています。収穫した野菜や米の試食イベントもあり、「おいしい」と大変好評です。

自分で育てたものを収穫し味わうことができるため、食への関心を高め、食を大切に作る心を育む機会になっています。



【 食循環の支援 】

◎ 「とよっぴー」の配布および頒布(Ⅳ- b -6)

年1回、「とよっぴー」100kg を市内公立小中学校・幼稚園、全66か所へ無料配布しています。また、市立保育所全19か所へ、全体へ約1000kgを無料配布しています。配布された「とよっぴー」は、菜園や花壇などの土作りに活用されています。

また、市民の方への有料配布も行っています。月2回原田苗圃で行う有料配布には毎年のべ1600人以上が訪れるなど、大変好評を得ています。その他、市内などの農家や各種イベント等でも配布しています。



◎ 生ごみ堆肥化講習会「生ごみも宝」、助成活動(Ⅳ- b -13,19)

家庭で作ったたい肥で花や作物を育ててみたい方向けに、生ごみたい肥化の講習会を実施しています。自産自消や生ごみの発生抑制・有機質資源の再活用の推進につながっています。

また、たい肥化容器を活用される人に購入費用の助成や資材の提供を行っています。



◎ とよっぴー倶楽部(Ⅳ- b -18)

堆肥化事業の市民応援団を組織し、「とよっぴー」の有効活用を通して資源循環型地域社会の形成に資することをめざしています。

年4回ニュースレター(「とよっぴー通信」)を発行しています。



【 食・食育に関する講演・講習など 】

◎ 緑と食品のリサイクルプラザ見学対応 (Ⅳ-b-12)

緑と食品のリサイクルプラザは「とよっぴー」の製造施設です。施設見学者に「とよっぴー」の製造過程を見ていただき、食資源循環の仕組みや食べ残しの減少について啓発しています。

施設見学に併せて、併設する「とよっぴー農園」の役割や活用状況について説明し、たい肥の有効性についても紹介しています。



◎ 気軽にできる野菜栽培（講習会）(Ⅳ-b-14)

たい肥など有機質資源を活用した野菜作りのノウハウが分かる講習会を実施しています。関心の高い減農薬での野菜作りができ、自産自消の推進にもつながっています。

ここ3年は「都市で学ぶ農楽講座」(全20回)を開講しています。



◎ 食育出前講座(Ⅳ-b-15)

小学校などに出向き、米づくりや食のリサイクルなどをテーマに講座を実施しています。稲刈り・脱穀・精米を行い、家庭科の先生とごはんを炊いて食べるところまで行う場合もあります。

内容によっては、収穫物を使った実演も交えるなど、作物の作られる様子に関心を持ってもらえるよう工夫しています。



【 地産地消の推進・その他イベントなど 】

◎ 学校等給食への堆肥使用野菜などの提供 (IV-b-20)

「とよっぴー」を使って育てた野菜を、学校や保育所の給食に JA を通じて少量ですが提供しています。秋の植え付け時に市内農家へ「とよっぴー」を配布し、年に 1 度（5 月末～6 月頃）、玉ねぎ（平成 24 年度は約 6 トン）を提供しています。地産地消の促進、安全・安心な食の提供に貢献しています。



◎ とよっぴー祭り (IV-b-17)

「とよっぴー」で育てた野菜の頒布、豊中産もち米を使用した餅つき、いも掘り体験、出店などがあり、大人も子どもも楽しめる年に 1 度の「食と循環のお祭り」です。



◎ 地場産作物の直販活動 (IV-c-3)

地産地消の推進を目的に、市内の協力農家と連携し、毎月 1 回 3 か所で、「とよっぴー」で育てた作物の直販活動を行っています。単独開催の野菜市を中心に、各種イベントでも販売しています。安全・安心な野菜の提供は消費者から好評を得ています。



3. ま と め

都市化に伴って田畑や自然に触れる機会が少なくなる中、土に触れ自然を感じる体験ができる貴重な機会を多く提供しています。取り組みの一つ、とよっぴー農園における活動では、主に親子を対象に農体験の機会を提供しており、子どもだけでなく、自然と触れ合う機会があまりないまま育ってきた親世代にとっても、農業や食育について学べる場となっています。イベントなどの際には、親子が、笑顔を見せながら体験を楽しむ姿がみられます。実体験を通じた知識の習得の促進のほか、とよっぴーの製造・配布、食育出前講座などでも「食」に関する知識の習得や関心を高める支援を行っています。

体験学習や講習を通して、食の生産現場にふれたり食資源の循環について学びぶことは、資源を大切にする心や食べ物をありがたく思う心、「もったいない」と感じられる心を育むきっかけになっています。

また、自分が得た知識や技術を、同じ気持ちを持つ人に伝え広げていき、環境教育や食育に取り組む人の裾野を広げる取り組みも積極的に行っています。活動を通して、地域のネットワーク、コミュニケーションの輪が形成され、地域交流が行われるとともに、自己実現・やりがいづくりにもつながっています。

コラム① 「夏休み親子クッキング教室」で市長が講師役に

平成 24 年 8 月 23 日、生活情報センターくらしかん(北桜塚)で『親子で市長とクッキング』が開かれました。夏休みを利用して、親子でコミュニケーションをとりながら、食の基本と食の大切さについて学んでもらおうと、とよなか消費者協会(谷口佳以子会長)が企画。浅利敬一郎市長が講師を務め、参加した 11 組 29 人が米粉を使った料理に挑戦しました。

浅利市長は「自分の食べる物を自分で準備できるようになることはとても大切なこと」、「経験すると自信を持ちます。保護者の皆さんはご家庭でもまた一緒に料理をしてあげてください」などと、食育への思いを交えつつあいさつした後、調理実習に移りました。

実習では『浅利市長のひとつの生地で 3 回おいしい米粉レシピ』ということで、「もちりおいしいまぜまぜ焼」、「野菜も一緒にいかバーグサンド」、「米粉の和菓子風」の 3 品を紹介。また、いかをさばく場面では、こどもたちは初めての経験に戸惑いながらも、1 人 1 杯ずつイカをさばく経験をしました。

完成後は、浅利市長も含め全員で試食。参加した皆さんからは、「とても楽しくお料理ができた」、「おいしかった」という意見が寄せられました。親子一緒に夏休みの楽しいひと時を過ごすことができたようです。



皆でさばいたイカ入り！



↑ もちりおいしいまぜまぜ焼



コラム② 「すいとん」づくり (蛸池小学校平和登校)



老人クラブ 蛸池統合延寿会（古川 克巳会長）は蛸池小学校の平和登校に合わせ、登校した児童に「すいとん」を作り、平和への思いを伝える活動を続けています。

全校集会で、広島への修学旅行の報告会を行い、平和を願う歌を合唱するなどした後、低学年は高学年の児童から戦争や平和に関する本の読み聞かせなどを聞きます。

一方、家庭科室では、老人クラブの会員が早朝から準備した「すいとん」がおいしいにおいを漂わせています。

「わーいにおい」と児童が「すいとん」を受け取りにくると、

「昔のすいとんは、お出汁も十分になかったし、そんなにおいしいものではなかったよ」

などと話しかけながら、手際よく「すいとん」を児童に渡します。

高学年の児童は地域のお年寄りの話を聞きながら、盛り付けや後片付けを手伝います。

また、この日の「すいとん」には校庭の菜園で老人クラブの会員が大切に育てた、ナスやネギなど野菜がたっぷりと入っています。

「おいしい」と声を上げて食べる児童と、蛸池統合延寿会会員の交流により、地域の中で平和への思いと、食の経験が受け継がれています。

菜園の野菜



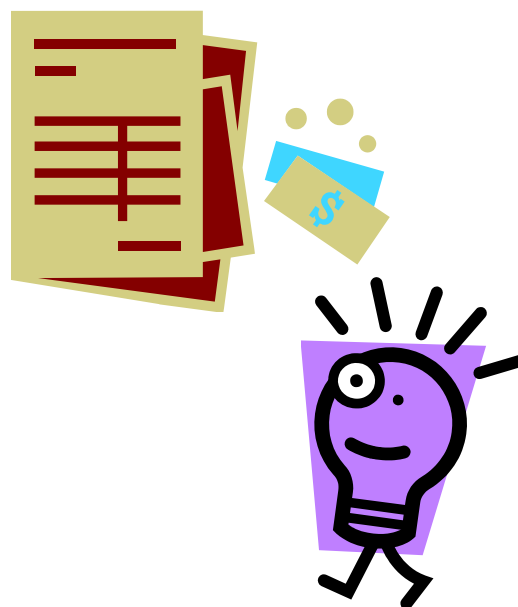
「すいとん」づくり



高学年の児童による読み聞かせ



Ⅲ. 各事業の進行状況



1. 基本目標別索引

I. 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	
a. 食に関する知識の普及・啓発や情報提供	．．．．．P.29
b. 食育に関する正しい理解の促進	．．．．．P.35
c. 危機管理に対する情報提供と啓発	．．．．．P.39
d. 食育推進運動の周知啓発	．．．．．P.39
II. 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現しよう	
a. 幼年期における望ましい食習慣の形成	．．．．．P.42
b. 少年・青年期における食の自立に向けた支援	．．．．．P.45
c. 健康状態にあった食育の推進	．．．．．P.47
d. 調理技術や食に関する知識の習得	．．．．．P.50
e. 適切な食を提供するための環境整備	．．．．．P.53
III. おいしく、楽しく、食事をしよう	
a. 交流を深める場や食事をする機会の提供	．．．．．P.55
b. 楽しい食事の促進	．．．．．P.57
c. 食を通じた地域活性化の促進	．．．．．P.58
IV. 食べる物、食べることを大切にしよう	
a. 体験・機会の充実	．．．．．P.59
b. 環境教育・環境学習の推進	．．．．．P.60
c. 地産地消の推進	．．．．．P.65
V. 歯や口の健康を維持・増進しよう	
a. 歯科疾患の予防	．．．．．P.66
b. 歯や口の健康づくりに関する情報提供と普及・啓発	．．．．．P.67

2. 所管別索引

人権文化部	人権政策室 とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ 【Ⅱ-d-8,9/Ⅱ-e-13】 豊中人権まちづくりセンター 【Ⅰ-b-1/Ⅲ-a-1,2】
政策企画部	広報広聴課【Ⅰ-a-1,2/Ⅱ-d-1/Ⅳ-a-1】
環境部	環境政策室【Ⅳ-b-1～5】 公園みどり推進課【Ⅳ-b-6,11～17,19,20/Ⅳ-c-3】 減量推進課【Ⅳ-b-7,8】
市民協働部	コミュニティ政策室【Ⅰ-a-3,4】 消費生活課（くらしかん）【Ⅰ-a-5～15】
健康福祉部	地域福祉室【Ⅰ-a-16/Ⅰ-b-2,】 障害福祉課【Ⅰ-a-17/Ⅱ-b-1～4/Ⅱ-c-1/Ⅳ-a-2】 高齢者支援課【Ⅱ-c-2】 保健企画課【Ⅰ-a-18/Ⅰ-d-1,2,5/Ⅱ-d-2/Ⅱ-e-1～5/Ⅲ-c-1】 衛生管理課【Ⅰ-c-1,2】 保健予防課【Ⅰ-a-19/Ⅰ-b-3～8/Ⅰ-d-2/Ⅱ-a-1,2/Ⅱ-c-3～7,18/Ⅳ-a-3/ Ⅴ-a-1,2/Ⅴ-b-1～3】 地域保健課【Ⅰ-a-34/Ⅰ-b-9～13/Ⅰ-d-13/Ⅱ-c-8～10/Ⅱ-e-6/Ⅴ-b-4】 保険給付課【Ⅰ-b-14,15】
こども未来部	保育幼稚園室【Ⅰ-a-20～23,25/Ⅰ-b-16～19,24/Ⅰ-d-7～9/Ⅱ-a-3,4,6/ Ⅱ-e-7,8,11/Ⅲ-a-3/Ⅴ-a-3】 保育所【Ⅰ-a-28/Ⅰ-b-25/Ⅱ-a-12,13/Ⅳ-b-10/Ⅴ-a-4】 保育所・保育園【Ⅰ-a-25,27/Ⅱ-a-7,8,11/Ⅲ-a-3/Ⅳ-b-9】 市立幼稚園【Ⅰ-a-25/Ⅰ-d-9,12/Ⅱ-a-7,11/Ⅲ-a-3/Ⅴ-a-4】 あゆみ学園【Ⅰ-a-25,27/Ⅰ-b-25/Ⅱ-a-7,8,11/Ⅳ-b-9】 しいの実学園【Ⅰ-a-25,27/Ⅱ-a-7,8,11/Ⅳ-b-9】
市立豊中病院	栄養管理部【Ⅰ-b-20/Ⅱ-a-5/Ⅱ-c-14～16】 看護部【Ⅰ-b-21】 緩和ケア委員会【Ⅱ-c-17】
上下水道局	経営企画課【Ⅱ-d-3】
消防本部	北消防署 予防広報課【Ⅰ-c-3】

教育委員会

- 地域教育振興室【Ⅲ-b-1,2/Ⅱ-e-9】
- 読書振興課【Ⅰ-a-24/Ⅰ-d-3,】
- 中央公民館【Ⅱ-c-13/Ⅱ-d-4/Ⅱ-e-10】
- 蛸池公民館【Ⅱ-c-13/Ⅱ-d-5/Ⅱ-e-10】
- 庄内公民館【Ⅱ-c-13/Ⅱ-d-6/Ⅱ-e-10】
- 千里公民館【Ⅱ-c-13,14/Ⅱ-d-7/Ⅱ-e-10】
- スポーツ振興課【Ⅰ-d-4】
- 青少年育成課【Ⅲ-b-3～5】
- 教育推進室【Ⅰ-d-5,6/Ⅱ-b-10/Ⅲ-b-6/V-a-3】
- 文化館チーム【Ⅱ-b-5/Ⅱ-c-11,12】
- 学校給食室【Ⅰ-a-27,29,30/Ⅱ-b-6～9,11/Ⅳ-a-6/Ⅳ-b-10】
- 小学校【Ⅱ-a-7,8,11/Ⅱ-b-9/Ⅲ-a-3/Ⅳ-b-9】

農業委員会事務局【Ⅳ-a-4,5,9/Ⅳ-c-1,4】

社会福祉協議会【Ⅰ-a-16,31～33/Ⅱ-d-10/Ⅱ-e-8/Ⅳ-a-8】

校区福祉委員会【Ⅲ-a-4～6/Ⅳ-a-8】

民生・児童委員【Ⅲ-a-4】

NPO 法人市民環境会議アジェンダ 21【Ⅳ-b-2,5,6,12～20/Ⅳ-c-3】

豊中市農業経営者協議会【Ⅳ-a-5】

NPO 法人とよなか市民活動ネットきずな【Ⅰ-a-3】

豊中私立幼稚園連合会加盟幼稚園【Ⅰ-a-25～28/Ⅰ-b-22～25/Ⅰ-d-8,10～12/
Ⅱ-a-7～12/Ⅱ-e-12/Ⅳ-a-7/Ⅳ-b-9/V-a-3,4】

豊中市民間保育園連合会加盟保育園【Ⅰ-d-10/Ⅳ-a-7/V-a-4】

老人クラブ連合会【Ⅱ-d-11,12/Ⅲ-a-7/V-a-5】

健康づくり推進員会【Ⅰ-a-34/Ⅰ-d-13】

一般財団法人豊中市医療保健センター【Ⅰ-b-26】

豊中市学校歯科医会【Ⅱ-e-14/V-a-6/V-b-5】

(一社)豊中市歯科医師会【V-a-6～8/V-b-5～8】

豊中地域活動栄養士会トゥディ【Ⅱ-d-13】

とよなか消費者協会【Ⅱ-d-14/Ⅳ-c-2,4】

豊中商工会議所豊中市小売市場連合会事務局【Ⅱ-d-14】

市民レングまつり実行委員会【Ⅳ-a-9】

桜井谷あおぞら朝市運営委員会【Ⅳ-c-5】

豊中市地域雇用創造協議会【Ⅲ-c-2】

3. 平成 24 年度 食育関連事業取り組み一覧

【凡例】

【事業等】

行 → 行政の取り組み

教 → 教育・保育の取り組み

地 → 地域社会の取り組み

【対象世代区分】

幼年期（0～6 歳、就学前）

少年期（6～15 歳、児童・生徒）

青年期（15～24 歳）

壮年期（25～44 歳）

中年期（45～64 歳）

高年期（65 歳～）

【今後の方向性】

◎ → 充実（今後さらに積極的に取り組む予定）

○ → 継続（今後も同様に取り組む予定）

△ → 縮小（規模などを縮小して取り組む予定）

－ → 廃止（終了する取り組み）

完 → 完了（単年度事業、期間の決まっている取り組みで完了するもの）

平成 24 年度 食育関連事業取り組み一覧

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠 期	幼年 期	少年 期	青年 期	壮年 期	中年 期	高年 期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の 方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	a 食に関する知識の普及・啓発や情報提供	1	行	広報とよなか	広報広聴課		●	●	●	●	●	●	●	月 1 回発行。全世帯と全事業所に配布しています。市の各種施策や事業計画、福祉、環境、文化・スポーツなど市民に必要な情報を提供しています。	年間発行部数 2,294,350 部 うち食育関連お知らせ記事 40 件	継続して記事を掲載していきます。	○
		2	行	ケーブルテレビ番組「かたらいブラザ」	広報広聴課		●	●	●	●	●	●	●	市広報番組「かたらいブラザ」を企画・制作し、ケーブルテレビで放送しています。	年間番組制作数 52 件 うち食育関連の放送 4 件	継続して告知等を実施していきます。	○
		3	行	市民公益活動推進のための情報提供	コミュニティ政策室 NPO 法人とよなか 市民活動ネットきずな		●	●	●	●	●	●	●	(運営は、公募により市民公益活動団体に委託)「市民活動情報サロン」(豊中駅舎内)にて、市民の自主的・自発的な社会貢献活動(市民公益活動)に関する情報提供や相談等を実施しています。	市民活動情報サロン来場者数 6,046 人 団体情報掲載団体数 112 団体	「食育」をはじめ、さまざまな分野の市民公益活動への関心を高め、活動のきっかけづくりや市民団体どうしのつながりづくりにつながっています。	○
		4	行	市民公益活動推進助成金	コミュニティ政策室		●	●	●	●	●	●	●	分野を問わず、公募し、市民公益活動事業に必要な経費の一部を助成。市民公益活動団体の自律的・継続的な発展を支援することにより、市内の市民公益活動全体の推進を図る制度です。	助成金交付団体数 9 団体 助成金交付額 1,928 千円	「食育」をはじめ、さまざまな分野の市民公益活動団体が、助成金を活用し、段階的に自立発展しています。	○
		5	行	技術・家庭科副読本「くらしのノート」	消費生活課 (くらしかん)				●					消費者教育資料集(技術・家庭科副読本)「くらしのノート」を作成し、学校現場で活用を推進しています。豊中市食育推進計画に関する記述あり。	小学生版に食育推進計画に関する記述あり。 市内在学の小学 5 年生に配布 小学生版 4,200 部発行	食に関する情報を伝えることができました。	○
		6	行	生活関連物資課題調査	消費生活課 (くらしかん)		●	●	●	●	●	●	●	(とよなか消費者協会に委託)食料品、日用品等の生活関連物資について、年 3 回テーマを決め市場調査を行っています。	年 3 回実施 調査内容「精米・玄米の品質表示などの調査」「鶏肉の鮮度調査」等	調査結果を情報配信し、食に関する情報を伝えることができました。	○
		7	行	くらしの情報	消費生活課 (くらしかん)		●	●	●	●	●	●	●	消費生活情報誌「くらしの情報」を発行し、くらしかん及び市内公共施設で配布しています。	A4 判 8 頁。3,000 部発行/回 点字版 B5 判両面 20 枚。11 部発行/回 各年 4 回	食に関する情報を伝えることができました。	○
		8	行	くらしかんのホームページ	消費生活課 (くらしかん)		●	●	●	●	●	●	●	平成 14 年度に生活情報関連システム(くらしネット)を大幅に見直し、くらしかんホームページ(くらしネット)により、消費生活情報を提供しています。	平成 20 年度より市ホームページの一部に入り形式がリニューアルしましたが、引き続き消費生活情報を提供しました。 総利用件数 72,654 件	食に関する情報を伝えることができました。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	a 食に関する知識の普及・啓発や情報提供	9	行	くらしかん祭り	消費生活課 (くらしかん)		●	●	●	●	●	●	●	①消費者問題等を楽しく学んでもらうことを目的に毎年統一テーマを決め、様々な催しをくらしかん全体で行う消費者啓発イベントを開催しています。 ②平成10年度からくらしかん登録グループとともに実行委員会体制で企画運営をしています。	協力団体 18 団体（くらしかん登録グループを除く） 参加者数 928 人	食に関するブースを設けているので、食育を推進することができました。	○
		10	行	子どもの消費者教育講座	消費生活課 (くらしかん)				●					小学生対象の消費者問題啓発講座の中で食に関する講座を実施しています。	1 回実施。食品表示関係講座「DNAの世界をのぞいてみよう」参加者 20 人（親子）	小学生の親子を対象に体験型学習を通じて、食育を推進することができました。	○
		11	行	くらしの教員セミナー	消費生活課 (くらしかん)					●	●	●		小中学校技術家庭科教員対象の消費者問題啓発講座（年 2～3 回）を実施しています。	4 回実施。（内食育関係 2 回）	小中学校の教員向けに、学校における消費者教育を推進することができました。	○
		12	行	消費者啓発講座	消費生活課 (くらしかん)		●	●	●	●	●	●	●	①消費生活セミナー：消費生活の基礎知識を学ぶ講座 ②消費者月間行事：消費者月間の5月に内閣府の統一テーマに沿って行う啓発事業として食に関する講座を開催しています。 ③学校向けに啓発講座を開催している	①消費生活セミナー：2 回（内食育関係 0 回） ②消費者月間行事：1 回（内食育関係 0 回） ③学校における啓発事業 82 回（1 クラス 1 回でカウント）2,960 人（内食育関係 43 回 1,618 人）	食生活全般に関する講座を実施し、食育を推進することができました。	○
		13	行	くらしの研究発表会	消費生活課 (くらしかん)		●	●	●	●	●	●	●	くらしに関する問題について、調査・研究をしている消費者グループなどに発表の機会の提供を毎年行っています。	発表団体は 4 グループ、「くらしから提案！2012」を発行（食に関する研究発表はなし）	今回は食に関する研究発表はありませんでした。	○
		14	行	生活情報ひろば事業 (市民啓発業務等)	消費生活課 (くらしかん)		●	●	●	●	●	●	●	（とよなか消費者協会に委託） 平成 18 年 8 月に制定した「豊中市の消費者のくらしを守る条例」に基づいて開設した「生活情報ひろば」において、くらしかん登録グループ主体による消費者啓発講座・展示等の中で、食に関する講座・展示を開催しています。	パネル展 5 回「食の安全・安心」他 地産地消イベント 12 回 講座 18 回「お魚屋さんが教える魚の捌き方教室」「元気な食卓」等	くらしかん登録グループの特色を生かした食に関する講座やパネル展示を実施し、食育を推進することができました。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	a 食に関する知識の普及・啓発や情報提供	15	行	消費者活動の支援	消費生活課 (くらしかん)					●	●	●	●	消費者団体について、登録制を実施し、定例会の運営や事業（リユースバザー・くらしかん祭り・講座等）を市と協働で行うことにより、活動の促進支援を図っています。また、使用申込を一般申込の3か月前から6か月前に優遇し、また「生活情報ひろば」を活動・交流の場として提供して活動の支援を行っています。	登録グループ 11 団体	くらしかん登録グループの特色を生かした食に関する講座やパネル展示を実施し、食育を推進することができました。	○
		16	行	ふくしねっと とよなか	地域福祉室 社会福祉協議会		●	●	●	●	●	●	●	豊中市の福祉や健康に関する行政サービス情報をはじめ、ボランティアなどの地域福祉活動情報、介護保険や福祉関連の民間事業者情報などを市のホームページに掲載しています。	リクエスト総数 1,071,315 訪問数 335,250 訪問者数 121,888	アクセス数は増加傾向にあるが、今年度中に今後の在り方について廃止も視野に入れながら実務担当者で話し合う予定。	△
		17	行	市立障害者通所施設等での給食の献立表と給食だよりの配布	障害福祉課					●	●	●		栄養士による食育に関する情報を掲載しています。	毎月1回	利用者や家族から食育に関する情報や料理のレシピがわかりやすいとの意見をいただきました。	○
		18	行	ホームページ「健康食生活応援」	保健企画課		●	●	●	●	●	●	●	健康づくりを支援する環境づくりを目的に平成18年6月に立ち上げ、生活習慣病予防のためのメニューの提供等を行っています。	平成24年からは「食生活・栄養」と見出しを変更し、生活習慣病予防のためのメニューに加え「食育」についての掲載を始めました。	平成25年3月策定の第2期食育推進計画に関する情報を提供するツールとして積極的に活用していきます。	◎
		19	行	「食事バランスガイド」の啓発	保健予防課		●	●			●	●	●	食育講座などにより食事バランスガイドの啓発を行っています。	随時実施	「食事バランスガイド」を参考に食生活を行う人を引き続き増やしていきます。	○
		20	行	情報誌等の発行	保育幼稚園室		●	●						妊娠がわかってから就学前までの子育て情報を掲載した「子育てサービスガイド」、公立保育所・民間保育園・子育て支援センターの情報を掲載した子育てマップ“てくてく”を発行し、離乳食講座・食の講座の情報を提供しています。	同左	各支援センターなどに設置。赤ちゃん訪問でも情報誌を配布し、市民に活用してもらっています。	○
		21	行	子育て支援ホームページの充実	保育幼稚園室			●						豊中市ホームページにおいて、子育てに関するさまざまな情報を公開するとともに、最新情報を定期的に更新しています。	同左	毎月更新を行うことで、全体の連携をとってきました。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	a 食に関する知識の普及・啓発や情報提供	22	行	子育て支援センターほっぺ事業	保育幼稚園室			●						①地域子育て支援センターを統括する中核施設として、子どもの視点に立った子ども施策の企画調整、子育て・子育て情報の受発信や相談、子育て講座(手づくりおやつ講座)、地域の子育て支援する人材の育成等を行い、さまざまな子育て・子育て支援活動をサポートしています。 ②地域福祉計画の保健・福祉・医療の関係機関と連携して全市的な子育て支援のネットワークづくりを進めています。	育ちの講座(1・2・3 歳) 年 各 2 ～ 4 回	離乳食の悩みから始まって、食に関する悩み(好き嫌いや食事の量など)の相談が多いので、丁寧に対応するとともに保護者同士での意見交換を行う場を作って保護者の不安を解消してきました。	○
		23	行	地域子育て支援センター事業	保育幼稚園室			●						①6ヶ所の地域の子育て拠点施設として、子育て相談、情報提供、子育てサークルの育成、遊びや交流の場の提供等を行っています。 ②地域支援保育士とともに、「地域福祉ネットワーク会議子ども部会」を運営、住民や関係機関・団体との連携のもと地域の子育てネットワークづくりに取り組んでいます。	地域子育て支援センター食育講座開催 各 1 ～ 2 回	保育所内の支援センターなので、調理の方の協力のもと実践に対応した食の提供を行うので、参考になったという声が多く聞かれた。	○
		24	行	関連資料提供、読書振興	読書振興課・図書館		●	●	●	●	●	●	●	①食育に関する図書や資料・情報の収集と提供・相談を行っています。②食育への関心を深めていくため関連資料の展示などを行っています。	平成 22 年度より、テーマ別に資料や情報を検索するための手順をまとめた、豊中市立図書館パスファインダー「検索ナビ」を作成しており、現在 12 種類と特別編が 1 種類作成されています。テーマの一つとして『食育・食の安全』『メタボリック・シンдрローム』もとあげています。豊中市内の全図書館で配布しています。この「検索ナビ」は、豊中市立図書館ホームページからもご覧いただけます。平成 24 年度から 25 年度にかけて、企画展示の中で、パスファインダー関連の展示として「食育・食の安全」「メタボリック・シンдрローム」の全館巡回展示を実施中です。地域保健課が実施している健康カレッジ・市立豊中病院と図書館で実施している医療健康情報レクチャー・食の育みフォーラム(d1 欄参照)において関連資料の貸出を行いました。	図書館単独の取り組みだけでなく、他部局との連携も行いながら、より広く資料や情報提供の機会を持つことができるようになってきました。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	a 食に関する知識の普及・啓発や情報提供	25	教	食に関する情報発信 「簡単おいしいクッキング」「びよびよ（離乳食の進め方）」「食育だより」等	各保育所・園 幼稚園 保育幼稚園室・あゆみ学園・しいの実学園 豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						レシピや食べ物に関する情報などを通じて、保護者に食育の重要性を伝えていきます。	随時配布 献立表の中に記載食材紹介や季節の行事などを知らせています。 毎月の給食予定献立表の余白に食に関する情報（食材紹介や季節の行事など）を記載	保育所・園で実施しているメニューは親しみやすく簡単に作れるレシピ等は好評です。 献立表の一部として保護者に関心をもってみていただいている。	◎
		26	教	保護者向けに発行する通信	豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						栄養士等による食育に関する記事を掲載しています。	毎月の給食予定献立表の余白に食に関する情報（食材紹介や季節の行事など）を記載	献立表の一部として保護者に関心をもってみていただいている。	◎
		27	教	給食の献立表等の保護者への配布	各保育所・園 あゆみ学園・しいの実学園 豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●	●					毎月給食予定献立表を配布。	月 1 回配布（アレルギーの園児に別メニュー配布）	献立を伝えることで家庭での食事にも役立つ。児童及び保護者の食物アレルギーの対応にも活用しています。 管理栄養士作成の成分付献立表は特に評価されました。	◎
					学校給食室				●					毎月給食予定献立表を配布。	月 1 回約 20,000 枚×11 ヶ月分配布	献立を伝えることで家庭での食事にも役立つ。児童及び保護者の食物アレルギーの対応にも活用しています。	○
		28	教	保育所地域活動事業	各保育所 豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園		●	●	●	●	●	●	●	所庭開放、誕生会、発育測定、年間行事、高齢者との世代間交流、育児講座、赤ちゃんサークル等を行っています。	地域の子育て家庭対象に所庭開放（毎日）。 誕生会・発育測定（月 1 回）。 保育所行事に参加案内、世代交流随時、講座、サークル活動の定期的実施（毎月） 親子体操（概ね毎月 1 回実施）など。	安心して遊べる場所であり、情報交換や相談等で継続して来られる方が多く地域に果たす役割は大きいです。 園庭開放は園を知っていただくよい機会、子育て相談を受けたり、同年代の子どもをもつ保護者の交流の場になっている。	○
		29	教	教室向け給食だより「もぐもぐ」、栄養メモ	学校給食室				●					毎月、教室掲示用に低学年、高学年別に給食だより「もぐもぐ」、献立カレンダー、栄養・食品に関する一口メモを発行しています。	月 1 回各クラス 1 枚ずつ配布、1 口メモは 4～5 種類配布	献立を通して、栄養に関する知識や食育情報の提供の場として実施しています。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	a 食に関する知識の普及・啓発や情報提供	30	教	お弁当づくりの冊子	学校給食室				●					お弁当づくりの冊子を6年生児童に配布しています。	6年生児童数約 4,000 部配布	児童が中学入学後、自分でお弁当を作ることができるように、食育推進計画を反映した内容で実施しています。	○
		31	地	子育てサロン	社会福祉協議会			●	●					親の出会いの場・学習・交流の場づくりとして、校区福祉委員会と民生・児童委員が連携して実施。食育に関する相談も行なっています。	536 回 参加者数 16686 人	継続実施	○
		32	地	ふれあいサロン	社会福祉協議会		●	●	●	●	●	●	●	なかまづくり・健康増進、いきがいくりの場として開催校区福祉委員会民生・児童委員が連携して実施。食育に関する相談も行なっています。	1260 回 参加者数 19437 人	継続実施	○
		33	地	地域子育て支援事業	社会福祉協議会			●						①わいわい子育てミーティングを開催しています。②子育てサークルマップを作成しています。③校区福祉委員会での子育て支援活動（小地域福祉ネットワーク活動）を進めています。	①1 回 42 人参加②5000 部発行③38 校区で開催 536 回 のべ参加者数 16686 人	継続実施	○
		34	地	健康教室	健康づくり推進員会 地域保健課		●	●	●	●	●	●	●	健康づくり推進員がその居住する小学校区において、豊中市（地域保健課）と協力して実施する健康教室で、食育や口の健康に関するテーマも取り上げています。校区福祉委員会・公民分館・老人会等と共催したり、講師を市や保健所の専門職員以外に地域住民にお願いしたり、小学校や地区会館で行ったりと、地域に密着して行っています。	校区健康教室 46 回 1,325 人 うち食育に関するテーマ 11 回 293 人	毎月行われる校区代表者会の中で、随時食育に関連するテーマを勉強会として取り上げるとともに、地域の健康教室でも食育と健康づくりについて学ぶことができたと考えています。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	b 食に関する知識の普及・啓発や情報提供	1	行	子育て・教育相談	豊中人権まちづくりセンター			●	●					①子どもに関する相談全般を行っています。 ②学校、家庭、地域における生活の相談事の解決を支援しています。	生活習慣（特に食事）の大切な部分も伝えながら、相談支援を行いました。 相談回数 270 回 相談者数 270 人	深刻なケースほど、生活習慣面、食生活が乱れてくるため、見直せるような助言等が行える機会は貴重と考えています。	○
		2	行	福祉なんでも相談窓口	地域福祉室		●	●	●	●	●	●	●	（社会福祉協議会に委託）校区の福祉委員会と民生・児童委員が連携して「福祉なんでも相談」を実施しています。	相談件数 400 件	36 か所、週 1 回程度開催	○
		3	行	食生活自己点検票の作成	保健予防課	*	●	●	●	●	●	●	●	食育に関するイベントや取り組みに、地域の団体でも誰でもが使えるようにとのご意見をいただき作成。問いを読んで○を付けることで簡単に食生活の点検ができます。	地域の教室などで活用しました。	残部については、引き続き活用していきます。	完
		4	行	母子健康手帳交付時の指導	保健予防課		●							母子健康手帳交付時において、食に関する知識の普及や相談に応じています。平成 22 年度からは 3 拠点の保健センターでの発行になり、全ての妊婦に専門職で発行しています。	母子健康手帳交付数 3868 件	平成 22 年度から 3 拠点の保健センターで、全ての妊婦に専門職で発行し、妊娠中の食事やお口の中のことなどについて伝えています。支援の必要な人を早期に発見し支援開始の機会となっています。	○
		5	行	妊産婦・乳幼児等電話面接相談	保健予防課		●	●						①妊産婦・乳幼児の保護者等の電話等による相談に対して、保健師、栄養士、歯科衛生士、助産師等が相談に応じています。（平成 22 年 6 月から「妊娠出産子育て総合相談窓口」を開設し、関係機関との連携ははかります） ②健診後に育児状況など確認が必要と思われる対象者に対し保健師等から電話による保健指導を行っています。	随時実施 延べ 9704 件	社会問題化している育児不安や虐待予防の取り組みのひとつとして必要性が高いと評価しています。	○
		6	行	育児相談	保健予防課			●						①各健診や電話相談などで相談を希望したり、必要と思われる対象者に案内し、3 会場で 1 ～ 2 回／月ずつ実施。保健師・栄養士・保育士が相談に応じます。 ②地域の校区福祉委員会や保育所などと連携した地区育児相談を実施しています。	①育児相談 開催回数 48 回 参加者数延べ 332 人 ②地区育児相談 開催回数 132 回 参加者数 延べ 744 人	子育て環境の変化に伴う育児不安や孤立化する親子の増加が考えられる中で、育児に関係する相談の場が必要とされています。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	b 食に関する知識の普及・啓発や情報提供	7	行	妊産婦・乳幼児等訪問指導	保健予防課		●	●						必要と認められた人に対し保健師または助産師・栄養士等が家庭訪問を行い、個々の状態に応じた保健指導や必要な援助を行っています。	訪問件数 延べ 4385 人	訪問指導は、乳幼児及びその保護者のみならず家族全体の援助も可能となり、家庭の状況にあわせた家族全体の健康に与与することができます。	○
		8	行	4 か月児・1 歳 6 か月児・3 歳 6 か月児健診時の保健指導	保健予防課			●						①4 か月児健診では、第 1 子に対して離乳食などについて集団指導を実施しています。また、栄養士や保健師などによる個別の相談や保健指導も行なっています。 ②1 歳 6 か月児健診及び 3 歳 6 か月児健診では、栄養士や保健師などが相談や保健指導を行っています。	①4 か月児健康診査 開催回数 48 回 受診者数 3471 人 ②1 歳 6 か月健康診査 開催回数 48 回 受診者数 3433 人 3 歳 6 か月健康診査 開催回数 30 回 受診者数 3216 人	健診では疾患や障害の早期発見、育児支援の必要な人を支援につないでいます。また情報提供を行なう場であり、食育推進のために活用できる場と考えます。	○
		9	行	健康相談	地域保健課						●	●	●	生活習慣病予防・介護予防・歯・栄養など健康に関する相談に電話や面接で応じています。	健康相談 3,685 回 延 5,206 人	食に対する相談に対しては、今後も各専門職で対応していきます。	○
		10	行	骨粗しょう症検査時の保健指導	地域保健課					●	●	●	●	18 歳以上の女性を対象に、骨密度測定（集団検診）を行っています。 ○超音波によるかかとの測定	骨密度測定 941 人	受診率に大きな変化はありませんでした。	○
		11	行	訪問指導	地域保健課						●	●	●	保健師・理学療法士・作業療法士・歯科衛生士・栄養士が家庭を訪問し、介護や療養方法、健康管理に必要な事項を指導しています。	訪問 実 74 人 延 184 人	専門職による訪問指導で対象に合った指導ができました。食に関する問題は常に付随しています。	○
		12	行	特定健診	地域保健課						●	●	●	平成 20 年度より医療保険者に、被保険者及び被扶養者（いずれも 40 歳～74 歳）を対象とする健診・保健指導の実施が義務付けされました。	特定健診 21,151 人（受診率 28.2%）	健診の受診によりメタボリックシンドロームの発見などを図ってきました。未受診者への再勧奨に努めていますが、受診率は低迷しています。	◎
		13	行	特定保健指導	地域保健課						●	●	●	特定健診を受診した結果、メタボリックシンドロームやその予備群と判定した人に対して、生活習慣を振り返り、その改善につなげるための特定保健指導を実施しています。	動機づけ支援 506 人、積極的支援 83 人、計 589 人（受診率 26.2%）	メタボリックシンドロームの解消や予防のための指導を行いました。より多くの対象者に参加してもらえるように、H25 年度から内臓脂肪測定会を開催しています。	◎

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	b 食に関する知識の普及・啓発や情報提供	14	行	骨密度測定時の保健指導	保険給付課					●	●	●	●	健康展参加市民を対象に、市民が自己の健康管理をするための支援として骨密度測定及び保健師による指導を実施しています。	台風のため中止	市民が自己の健康管理をするための支援ができています。	○
		15	行	人間ドック受診時の保健指導	保険給付課						●	●	●	人間ドック受診対象者（20 年度より 30 歳以上 74 歳以下）に対し、医療機関が個別指導を実施しています。	人間ドック 1,493 人、脳ドック 119 人 セット（人間ドック+脳ドック） 1,053 人	医療機関が個別指導をすることによって疾病の予防、健康管理をするための支援ができています。	○
		16	行	放課後こどもクラブでの指導	保育幼稚園室				●					放課後、帰宅しても保護者が仕事などで家庭に不在の市立小学校の 1 年生から 3 年生（支援学級在籍の児童及び本市に居住する支援学校在籍の児童は 6 年生）までの児童の健全育成をはかっています。	放課後こどもクラブの全日開設日の弁当時に、食事マナーや食べ物を大切にし残さず食べるなどの偏食改善等の指導をおこないました。また、友達と楽しく食べる中、食べ物と身体づくりがつながっていることに気づくよう指導しました。	友達と楽しく食べる中、残さず食べることの心地よさを感じ、食べ物と身体づくりがつながっていることがわかり、食を話題にする姿も見られました。	○
		17	行	育児支援家庭訪問事業	保育幼稚園室			●						児童の養育支援が必要でありながら、自ら支援を求めて行くことが困難な状況にある家庭に対して、家庭に訪問し育児に関する相談や助言等の支援を行っています。	育児支援家庭訪問回数 69 回	個々への相談・助言を行い、必要な家庭への支援のきっかけ作りを行い、関係機関との連携に結び付けました。	○
		18	行	子育て支援センターの相談事業	保育幼稚園室			●						育児、食育、健康などについての相談指導（電話、面接、訪問、出前相談）を子育て支援センター・地域支援保育士が行っています。	ほっぺ相談件数 2,293 件 地域子育て支援センター相談件数 19,683 件	こんにちは赤ちゃん訪問で相談窓口等の子育て情報を伝え、子育ての悩みに助言を行い、不安の軽減につなげました。	○
		19	行	こんにちは赤ちゃん事業	保育幼稚園室			●						生後 4 ヶ月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、授乳状況など親子の心身の状況の把握、および助言を行う。また、子育てに関する情報提供を行う。	訪問対象者数 3,642 人	対象者へ情報提供を行った後に、近くの支援センターやサロンに出向く、低年齢の親子(0 歳児)の利用が増えてきている傾向が見られます。	○
		20	行	個人栄養食事指導事業	市立豊中病院栄養管理部		●	●	●	●	●	●	●	医師の指示による、疾病別の個人栄養食事指導を行っています。	指導人数 1340 名	多職種の連携をより深め、個々の患者さんに即した栄養指導をするようにしてきた。栄養指導を行う患者さんの情報を部内で交換し、よりよい指導につなげている。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	b 食に関する知識の普及・啓発や情報提供	21	行	ふれあい看護での相談事業等	市立豊中病院看護部		●	●	●	●	●	●	●	①看護の日イベントを行っています。 ②栄養管理部では各種生活習慣病の食事による予防及び治療についてのパネル展示、骨密度測定・血糖測定・体脂肪測定後の異常値が出た方への無料栄養相談などを行っています。	開催回数 1 回。相談人数 24 人	食生活の講義や劇を行ったり、栄養相談を行う場を設けたことで、ふだんは接点のない患者さん以外の市民にも年度ごとのテーマにあわせた食事の啓蒙活動ができた。	○
		22	教	幼児教育支援センターでの相談	豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						教育相談や育児相談を行っています。	(大学と連携をはかり) 月 1 回の相談を実施。そこから教育支援センターにつないだ事例も。	継続相談のケースが多く、園での活動観察を通した相談が充実	◎
		23	教	地域に開かれた幼稚園づくり事業での相談等	豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						私立幼稚園における「子育て支援事業」(育児・教育相談など)を実施しています。	月 1 回実施	親子で園庭で遊んだり、親同士でコミュニケーションを図る場を提供できている。	○
		24	教	育児相談・就学前相談	保育幼稚園室 豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						公立幼稚園を会場に、地域の子育て中の保護者を対象にした専門家による相談事業を実施しています。	随時実施 専門家による相談を実施	幼稚園においては、食育についての相談よりも心身の発達やしつけ・進学に向けての相談が多くなってきています。 地域の子ども達にも伝えています。	○
		25	教	ふれあい子育て相談	各保育所・あゆみ学園 豊中市私立幼稚園連合会加盟園			●						子育てに関する電話相談と来所(園)による相談を行っています。	随時対応 キンダーカウンセリング巡回指導員による育児相談や未就園児来園日に電話による相談実施相談 発達・育児相談を園内のみならず地域にも広報し受付けた。	各々の状況に合わせたアドバイスにより育児不安が軽減されている。 あまり多くの利用者はなかったが充実はしていた。	◎
		26	地	電話・面接健康相談	一般財団法人豊中市医療保健センター		●	●	●	●	●	●	●	電話もしくは面接で、健康に関する相談に対応しています。相談の対応は、医師会・歯科医師会及び薬剤師会の会員が行い、食育や口の健康に関する内容も相談できます。 市民健康展会場での相談では、栄養相談の窓口も設けています。	8 科目健康相談 実施回数 5 回 相談件数 87 件 1 4 科目健康相談(健康展時実施) 天候不良のため、中止	幅広い年齢層、相談内容に応えており評価に値する。	◎

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	c 危機管理に対する情報提供と啓発	1	行	食中毒予防街頭キャンペーン	衛生管理課	*				●	●	●	●	食品等事業者や消費者団体と協力し、食中毒多発シーズンを前に街頭キャンペーンを実施し、広く市民に食中毒への注意喚起を行っています。	H24.7.17 阪急豊中駅前にて実施しました。 参加者 800 名	街頭キャンペーンは、食に興味のない方にも情報提供できる機会となっています。	○
		2	行	小学 1 年生向けリーフレットの配付	衛生管理課	*			●					食中毒予防の 3 原則の周知と、食肉の生食を避け、十分加熱して食べるよう啓発を行っています。	H24.8.27 市内公立、私立小学校の 1 年生へ配布し、食中毒予防の啓発を実施しました。 作成数 3,500 枚	毎年度、大阪府の豊能、北摂地域の 1 年生を対象に、共通のリーフレットを用いて、食中毒予防の知識普及に努めています。	○
		3	行	第 3 回女性防火クラブ研修 学ぶ・作る・非常食	北消防署予防広報課	*					●	●	●	管理栄養士さんを講師に迎え、家庭における食に関する正しい知識、食の選択及び食生活を送るための食育と、災害時における身近な非常食の作り方を 45 名のクラブ員が学んだ。	平成 25 年 3 月に 1 回、実施した。	実際に家庭にある身近な食材を使って災害時における非常食の作り方等を学び有意義な研修会となった。 今後、クラブ員を通して非常食の作り方等を地域で共有し、地域防災力の強化を図りたい。	完
	d 食育推進運動の周知啓発	1	行	食の育みフォーラム	保健企画課					●			●	食育推進計画の周知のため、市民に身近なテーマでフォーラムを開催しています。	健康づくり推進委員会と共催し、「まさかの時の食育を考える」と題して、食育から防災を考えることで、減災につなげていくことをめざしたフォーラムを開催しました。 参加者 134 人	食育の目標からテーマを選び、年ごとにライフステージに応じた内容でフォーラムを開催、食育に係る部署、団体、機関とも共催し連携して行ったことは評価に値すると考えています。	◎
		2	行	「食育月間」「食育の日」の啓発	保健企画課 保健予防課		●	●	●	●	●	●	●	毎年 6 月を食育月間、毎月 19 日を食育の日として啓発を行っています。	食育に関する講座の中で食育月間・食育の日の周知を行いました。	引き続き、市民が食育に関心を持ち取り組みやすくするための取り組みをすすめます。	○
		3	行	食育コラボ～みんなで は・は・は	読書振興課・図書館	*		●						歯科衛生士によるお話と図書館職員によるおはなし会を行います。関連の本や絵本の貸出も行い、お口の健康に関する個別相談の時間も設けます。	庄内・岡町・東豊中・高川図書館で、「食育コラボ～みんなで は・は・は」として、保健予防課の歯科衛生士のお話と図書館職員によるおはなし会を行いました。高川図書館では、関連本の展示も実施しました。（成人書・児童書ともに）	平成 24 年度新規に実施。「おはなし会だけでなく、わかりやすい講座も一緒に聞けて良かった」と、利用者アンケートでとても好評を頂きました。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	d 食育推進運動の周知啓発	4	行	体育の日の事業	スポーツ振興課			●	●	●	●	●	●	体育の日の事業による健康啓発等の実施をしています。	体力測定、健康測定（骨密度測定など）の実施 参加人数 677 人	子どもから大人まで参加でき、スポーツを通じて食育の重要性を考える機会となっている。	○
		5	教	小学生メニューコンテスト	教育推進室 保健企画課				●					保健所と教育推進室の共催で、小学 5・6 年生からメニューを募集してコンテストを行い、入賞・入選作品メニューを市の小学校給食献立や食育推進事業に活用しています。	夏休みに実施。3027 人から「栄養バランスがよい」「おいしい」「作りやすい」などの工夫がされたメニューの応募がありました。（入賞 6 人、入選 6 人）	夏休みに実施するため、多くの応募があります。 また、入賞作品の学校給食採用、給食だより等での紹介により、学校関係者・保護者に認知されるようになってきており、学校、家庭における食育の推進が可能と考えています。	◎
		6	教	学校における「食に関する指導の全体計画」の策定	教育推進室				●					①各校の定める「食に関する指導の全体計画」に基づき指導します。 ②「食に関する指導の手引き」を活用した指導、教科・領域などにおける食に関する指導、給食時間における食に関する指導などを進めています。	①各校の定める食育の年間指導計画に基づき指導しました。 ②「食に関する指導の手引き」を活用した指導、教科・領域などにおける食に関する指導、給食時間における食に関する指導などを進めてきました。	各校において、食に関する指導の全体計画を中核とした食育の推進の充実に向けた取り組みは重要であると考え、今後も進めていきます。	○
		7	教	食育目標の作成	保育幼稚園室			●						「豊中市食育推進計画」「改定保育所保育指針」を踏まえた豊中市立保育所の食育目標を作成。	豊中市保育所の食育目標を基に、各保育所・園の実際に即した目標を作成。	食育目標を作成することで見通しをもって活動することができます。	◎
		8	教	キッズフェスタ	保育幼稚園室			●						親子の触れ合いや遊びの場の提供、幼児教育情報の発信の中で「食」に関する情報の提供をします。	参加者数 2387 人	事業は市民に定着してきておりますが食育ということでの発信については、取り組めていない現状があります。	△
					豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						親子の触れ合いや遊びの場の提供、幼児教育情報の発信の中で「食」に関する情報の提供をします。	すし・うどん屋さんごっこ遊びのコーナーを設けた。	親子で楽しく食に関心をもつ機会となった。	○
		9	教	子育て総合支援事業「子育て・子育て支援講座」	保育幼稚園室 市立幼稚園			●						食育についての講習会や専門講師による講演や親子ふれあい遊びなどを実施しています。	食育についての講座を保護者対象に年間 5 回実施。	各園、食育をテーマにした講座を取り入れ実施し、保護者と共に子どもの健康について考える機会をもっている。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼児期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅰ 食育に関する情報を正しく理解して、実際に行動しよう	d 食育推進運動の周知啓発	10	教	在園児及び未就園児の保護者向け講演会	豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園 豊中市民間保育園連合会加盟保育園			●						○幼児期の食についての講座を開催しています。 ○給食の試食を行い、その中で、栄養士・教諭が給食の意義・給食で行う指導について説明しています。	第1回給食試食会を実施。栄養士から説明があり、意見交換をした。	意見交換で得た情報をもとにより改善できた。	○
		11	教	バザー	豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						産地直送の野菜コーナーを設けています。	コーナーを設けなかった。	地域住民をはじめ、保護者に対しても好評を得そうなので検討したい。	◎
		12	教	「食育年間計画」の策定中	市立幼稚園 豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						幼稚園教育で「食育の年間指導計画」に基づき指導します。	園の実際に即した計画を策定	栽培や調理活動を通した食への関心をもつよう取り組みをすすめた。	◎
		13	地	市民健康づくりフォーラム	健康づくり推進委員会 地域保健課		●	●	●	●	●	●	●	健康づくり推進員及び一般市民を対象に健康に関する情報を伝える講演会を開催しています。	食の育みフォーラムと共催し、「まさかの時の食育を考える」と題して、食育から防災を考えることで、減災につなげていくことをめざしたフォーラムを開催しました。参加者 134 人	健康づくりに関するテーマでフォーラムを開催することで、食育に関係する部署とも積極的に連携できたと考えています。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活	a 幼少期における望ましい食習慣の形成	1	行	離乳食講習会	保健予防課			●						離乳食に関する知識・情報の提供 ○会場 千里保健センター、中部保健センター、庄内保健センター ○回数 前期（ごっくんクラス）・後期（かみかみクラス） 年 24 回ずつ実施。	ごっくんクラス 実施回数 24 回 参加者数 832 人かみかみクラス 実施回数 24 回 参加者数 613 人	離乳食に関する知識や情報を提供するとともに、保健センターが食に関する相談窓口であることを PR することができました。	○
		2	行	幼児食講座	保健予防課			●						幼児食に関する知識・情報の提供 ○会場 千里保健センター、中部保健センター、庄内保健センター	実施回数 22 回 参加者数 115 人	幼年期だけでなく生涯を通じた食生活について啓発する場として、実施することができました。	○
		3	行	「親と子の遊びのひろば」パンダグループ	保育幼稚園室			●						①2,3 歳の子どもとその保護者を対象に、人権を尊重した保育を基本に遊び提供・情報提供を行っています。その中で、保護者同士が子育ての楽しさを実感し、悩みを出し合う場をもち、保育所とともに地域の中でつながっていける子育て支援をしています。 ②パンダグループの中で、大勢の子どもとともに保育所の給食経験を行うことで食事の楽しさを味わっています。	各地域子育て支援センターで年 3 回クール程度実施	家で食べていないメニューや、友だちと一緒に食べることで、少しづつ子どもの意欲が見られ、参加している保護者同士も意見交換を行い、お互いに食に関しての不安解消や関心を高めていました。	○
		4	行	子育てに関する講座等の開催	保育幼稚園室			●						子育て支援センターでは親子・同年齢の子どもと一緒におやつを作り、作る楽しさを実感し、家庭でも親子のふれあう機会として知らせる「おやつ講座」を行っています。また、「センター講座」では子どもの育ちや健康・食育・かわり方について等の話を提供することで、保護者にとっての育児不安の軽減や子育てに関する情報を得る機会としています。	ほっぺのおやつ講座 年 2 回	日頃食べないメニューなどを手作り親子でふれ合いながら作ることが、食への関心を広げ実際に食べておいしかった経験をもとに家庭で再度作ったとの報告もいただいた。	○
		5	行	ほのぼのママ教室	市立豊中病院栄養管理部		●							ほのぼのママ教室の 3 回シリーズの内 1 回で「食事バランスガイド」による妊娠中の食品摂取の目安及び、鉄分・カルシウムの不足予防などの理解を深めています。	新しい情報を取り入れ、教室内容を充実する。 開催回数 10 回。参加人数 60 名	2011 年にテキストを改定、情報の更新、質問の多い事項を盛り込む等の他、個人の食生活の評価を行える内容も追加し、楽しく見やすいものとなった。その後も講義で随時最新情報の提供を行っている。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活	a 幼少期における望ましい食習慣の形成	6	教	親子の学び場講座	保育幼稚園室 (幼児教育支援センター)			●						料理・リトミック・音楽・スポーツチャンバラなど多様なジャンルの専門講師による遊びの提供や講演会などを実施しています。	23年度で完了		完
		7	教	給食・弁当時の指導	各保育所・園 幼稚園 小学校 あゆみ学園・しいの実学園 豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						①食前食後の食事への感謝を指導しています。 ②食べ物を大事にし、残さず食べることを指導しています。 ③食事マナーを指導しています。 ④嫌いなものでも一口食べるなど、偏食改善を指導しています。 ⑤献立に使われた食材について話題にしています。	毎日実施 バランスのとれた食生活やたのしく食事ができるように工夫しています。 食事前の手洗い、うがい実施・歯磨きなどの衛生指導をしています。 配膳の準備等の手伝いを実施	食べ物と身体づくりがつながっていることや自分の食べる量もわかっている。 仲間と共に楽しく食べ、残さずきれいに食べた時の心地よさを感じることができ、食べ物に興味を持ち、折にふれ季節の食べ物について話をするなど食を話題にする姿がみられました。 偏食が減り食事のマナーが身についています。 管理栄養士と相談しながらアレルギー対応を含め地道に行っています。 仲間と一緒に食する環境は子どもの食への興味を増し、又意欲的に食べるようになった。	◎
		8	教	給食	各保育所・園 小学校 あゆみ学園・しいの実学園			●	●					①こどもが、おいしく、安全に、楽しく食事をすることで、心身両面の発育を促して（保障して）います。②季節の行事食を提供しています。③給食の配膳を児童・生徒が自ら行うようにしています。	●お味見当番●自分でおにぎり●調理に関わる（野菜の皮むき・すじ取り・ごますり・和え物を仕上げる・おやつ作り etc）●食材を見る・触る●厨房の見学等	食材に触れたり、給食作りに関わり調理の過程を知ることによって食材や調理をしてくれた人に親しみが深まり給食に期待感をもってより積極的に食べるようになりました。食べ物に興味をもち「食」を話題にする姿がみられました。	◎
					豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						①和食中心のメニューを多くしています。 ②食材そのものの美味しさを知るようシンプルな調理も取り入れています。 ③希望する園児が、16時のおやつづくりに参加しています。 ④日常の給食に保護者が参加できる機会を設けています。 ⑤給食を委託する業者を検討するための試食会に保護者も参加できるようにしています。	味付をあまり濃くせず、食材そのものの美味しさを味わえる工夫をした。試食会や誕生日会で保護者が参加できる機会は好評だった。	家庭では使ったことのない食材を味わったり、少食や偏食の子どもが少なくなった。	◎

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活	a 幼少期における望ましい食習慣の形成	9	教	集会時の指導	豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						①朝食をゆっくり食べてから登園するよう指導しています。 ②嫌いなものでも一口食べるよう指導しています。	随時実施 バランスよく食べることで丈夫な体ができることを伝えている。	いわゆる食わず嫌いが解消された。	◎
		10	教	給食の試食と、給食に関する講演会	豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●	●		●			保護者による給食の試食と、栄養士などによる講演会を開催しています。	年 1 回給食試食会を実施 栄養士	毎年ちがう献立を食することができ好評	◎
		11	教	保育、教育の中で、調理体験、イベントなどの取り組み	各保育所・園 幼稚園 小学校 あゆみ学園・しいの実学園			●	●					①栄養素について学んでいます。 ②調理実習を体験しています。	給食づくりに関わったり菜園活動の収穫物によるクッキングなど年間を通じて随時実施。魚の解体見学後に給食で食べる等。	偏食の矯正。食べ物の命を感じて大切にいただく気持ちが育まれました。共に経験・共感し仲間関係が深まり自信につながりました。	○
					豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						季節の果物や野菜について学んでいます（講師：生産地の農協関係者）。	季節の野菜を栽培し、収穫したものを皆で食しています。 クッキングを通して調理する楽しさや、食材に興味を持てるようにしている。	自分たちが育てた野菜を喜んで食べ、苦手意識も克服している。 土に触れる体験、収穫物を食べる体験ができた。	◎
		12	教	「食」に関する子育て講座	保育所 豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						保育所給食をもとに、幼児食や手作りおやつ、食事の話などの講習を行なっています。	地域の子育て家庭対象各所 1～2 回開催。1 回 20～30 組 未就園児の子どもとクッキングしている。野菜を使ったおやつや昼食づくりを実施 キッズの子どものクッキング	手作りおやつ、食の話などしていく。 保育所給食の実際を基に行うので理解されやすい。	○
		13	教	赤ちゃんサークル「びよびよ」での離乳食講座	保育所			●						保育所給食をもとに、離乳食の講習を行なっています。	地域の子育て家庭対象各所 1～2 回開催。1 回 10～20 組	保育所給食の実際を基に行うので理解されやすい。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現しよう	b 少年・青年期における食の自立に向けた支援	1	行	市立障害者通所施設等での給食提供時の指導	障害福祉課					●	●	●		栄養バランスのとれた食事づくりに心がけると共に、保健センターからの歯科保健指導を参考に、個々人の障害に応じた食形態にも配慮しています。	毎日実施	利用者及び家族は毎日の給食を通じて栄養バランスのとれた食事や、食べやすくする工夫を実感することができると共に食事摂取量が改善されました。	○
		2	行	市立障害者通所施設等での給食提供時における情報提供	障害福祉課					●	●	●		専門職員が個々の利用者の障害に応じた食事介助工夫をすると共に、その内容を家族に情報提供することで、摂取する食材や食事を楽しむことができる場面の多様化を促しています。	毎日実施	家庭と施設の連携で個々の利用者の障害に応じたより良い対応を実施し、食を通じた健康づくり、楽しみづくりを実現しています。	○
		3	行	市立障害者通所施設等での給食の提供	障害福祉課					●	●	●		①おいしく、安全に、仲間と楽しく食事をする場を提供しています。 ②季節の行事食を提供しています。	毎日実施	仲間と共に季節感のある食事をとることで、心豊かな生活ができていと考えられます。	○
		4	行	市立障害者通所施設等での調理体験	障害福祉課					●	●	●		通所者が調理実習を体験しています。	収穫体験での収穫物などによるクッキングを随時実施。	実際に調理に関わることで食に関心を持つことができてきました。	○
		5	行	子どもの居場所づくり文化クラブ「クッキング」わくわく講座（月例講座）「親子クッキング」「お菓子づくり」	文化館チーム	*			●		●	●		提案公募型委託事業として特定非営利活動法人北摂こども文化協会に事業委託。市内在住の児童生徒を対象に、専門講師が季節の果物や野菜をもとに、手作りおやつや食事の話などの講習及び調理などさまざまな体験を積み重ね、食を営む基礎を育てています。また、「親子クッキング」では料理を通じて親子のコミュニケーションを図ることを目的として実施しています。	「クッキング」実施回数 26 回 延べ参加者数 257 人。 「親子クッキング」実施回数 10 回 延べ参加者数 111 人。 「お菓子づくり」実施回数 10 回 延べ参加者数 145 人。	料理に関する企画については、安定した市民ニーズがあり、多くの児童生徒がこれらの講座を介して「食」についての関心を高めることができました。また、親子クッキングでは、料理を通じて親子のコミュニケーションを図る場を提供することができました。	○
		6	教	一年生給食開始事前指導	学校給食室				●					新 1 年生の給食開始前に児童の給食への関心を高めるため、学校給食を担当する栄養士・調理員が訪問を行っている学校もあります。	小学校 5 校で実施	学校給食への理解を深めるため実施しています。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年 期	少年 期	青年 期	壮年 期	中年 期	高年 期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の 方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現しよう	b 少年・青年期における食の自立に向けた支援	7	教	給食の試食と、給食に関する講演会	学校給食室 各小学校 P T A				●		●			保護者による給食の試食と、栄養教諭などによる講演会を開催しています。	小学校 39 校で実施	食への関心を高めることと学校給食への理解を深めることを目的に、実施しています。	○
		8	教	学校給食週間	学校給食室				●					「全国学校給食週間」と定められた 1 月 24 日～30 日に、各地の郷土料理や世界の料理などを取り入れた特別の献立を出すことにより、改めて食に感謝する気持ちや食の大切さを考える取組みを行っています。	全小学校 41 校で実施	学校給食の意義や役割について児童生徒や教職員、保護者、地域住民の理解と関心を深めるため実施しています。	○
		9	教	児童の社会見学の受け入れ	各学校 学校給食室				●					学校調理員、栄養士との交流を深め、給食ができるまでを見学することで関心を高めています。	小学校 6 校を受入れ	給食への理解と食への関心を深めてもらうことを目的として実施しています。	○
		10	教	小・中学校における指導体制の充実	教育推進室				●					順次配置されている栄養教諭などを中心に食育を推進するとともに、教職員を対象にした食育に関する研修会を開催するなど食育の重要性に対する教職員の意識を高め、理解を深めるよう取り組みます。	栄養教諭などを中心に食育を推進するとともに、栄養教諭・学校栄養職員対象の研修会を実施する等、食育の重要性についての教職員の意識を高め、理解を深めるよう取り組んできました。	栄養教諭・学校栄養職員は、食育の推進に大変重要な役割を担っています。研修会実施により食育に関する研鑽を深めることができ、今後の指導体制の充実に向けて効果的であったと考えます。	○
		11	教	(仮称) 豊中市新学校給食センターの整備 (原田・服部学校給食センターの建替)	学校給食室				●					食物アレルギーなどの児童への対応食をはじめ、安全でおいしい給食を提供し、食育を推進するための学校給食に関する情報を発信する機能を備えた (仮称) 新学校給食センターの整備をめざす。	(仮称) 新学校給食センター建設に向け、設計施工一括方式による業者決定を行い、基本設計に着手しました。	現在の学校給食衛生管理基準に適應するとともに、食育やアレルギー対応など最新の給食センターとして安心・安全な学校給食を実施するため建替えの検討をすすめました。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現しよう	c 健康状態にあった食育の推進	1	行	グループホーム・ケアホームからの栄養相談	障害福祉課					●	●	●	●	障害者が共同生活を行う住居での食生活に関する相談にのっています。	0 件	個々の民間事業所では、スタッフに管理栄養士を加えることは難しいので、市の専門職が支援しています。	○
		2	行	介護予防教室	高齢者支援課								●	二次予防対象者(要支援・要介護状態等となるおそれの高い、虚弱な状態にあると認められる 65 歳以上の者)を対象に「運動器の機能向上」「口腔機能向上」「認知症予防・支援」等の介護予防教室の開催しています。	いきいき元気教室（介護予防教室）で高齢期における低栄養改善の講話・食に関するアドバイス等を実施しています。運動教室：15 クール 240 人、お口元気教室：9 クール 71 人、脳力アップ塾：6 クール 60 人	各教室にて、高齢者向けの低栄養予防の講話を実施し、口腔機能の維持を行ったり健やかな高齢期を過ごせるように食に関するアドバイスも実施し、総合的な介護予防に取り組んでいます。	○
		3	行	アレルギー講演会	保健予防課			●	●	●	●			専門医師がぜん息・アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患について講話を行なっています。また必要に応じ保健指導を行っています。	開催回数 3 回 参加者数 延べ 143 人	ぜん息やアトピー性皮膚炎などアレルギーについての正しい知識普及に寄与している事業です。アレルギーは食生活とも関係します。偶数年度には指導者研修を行なっています。	○
		4	行	妊婦教室「フレンドリーコース」	保健予防課		●							3 拠点の保健センターにて 1 コース 2 回実施。育児のイメージ作りや先輩ママとの交流などを目的に保健師・助産師が従事しています。	30 コース 60 回開催 参加者数 実 494 人、延べ 950 人	妊娠・育児の基礎知識を普及する場になっています。	○
		5	行	お父さんのための子育て教室	保健予防課		●							初妊婦とそのパートナーを対象に、沐浴実習、妊婦体験、各種サービスの紹介等を行っています。隔月に 1 回。土曜日の午前・午後に実施しています。（大阪府助産師会に委託、男女共同参画推進センターと共催で実施）	12 回実施。参加者 499 組、延べ 996 人	初産婦とそのパートナーを対象に妊娠・育児の基礎知識を普及する場になっています。	○
		6	行	カンガルークラス	保健予防課		●							栄養士による、妊娠期からの食生活・栄養についての講話。毎月 1 回開催しています。	実施回数 11 回、参加者数 83 人	妊娠期だけでなく生涯を通じた食生活について啓発する場として、実施することができました。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現しよう	c 健康状態にあった食育の推進	7	行	メタボ撃退お料理教室	保健予防課						●	●	●	メタボリックシンドロームなど生活習慣病予防に焦点をあてた調理実習。	1 回 11 人	簡単に作れるメニューだったり、メニューコンテストの入賞作品を献立に採用するなど、豊中らしさも取り入れたので好評でした。	○
		8	行	地区健康教室・介護教室（出前健康教室）	地域保健課						●	●	●	健康に関するご希望のテーマを保健師、栄養士、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士等が地域の会場に出向き、講演します。	健康教室 215 回 延 7,106 人	生活習慣病などをテーマとした健康教育を行いました。食に関する情報を発信する場として、広く活用しています。	○
		9	行	「無理しないカラダづくり講座」	地域保健課						●	●	●	メタボリックシンドロームなど生活習慣病予防に焦点をあてた栄養・運動についての気軽に楽しい体験学習。（特定保健指導の場としても活用）	73 回 延 813 人	メタボリックシンドロームに焦点を当てて実施していますが、参加者数の減少がみられるため、今後は内容の見直しを行います。	◎
		10	行	生活習慣改善講座（面接型・通信型）	地域保健課						●	●	●	血液検査などの検査データと、生活習慣調査票から個人の課題を抽出し、各人にあつた目標を決め、実践できるよう支援する講座を開催しています。期間は2か月間。 ①「面接型」：カラダづくり講座1回・個別面接3回・運動教室3回（希望者）。 ②「通信型」：データの分析・課題についてはインターネットを利用し、福岡大学のサポートシステムを活用して抽出し、この結果に基づいて受講者に対して郵送等のやり取りにより指導しています。（特定保健指導の場としても活用）	①面接型 133 回 延 159 人 ②通信型 4 回 延 4 人	個別の指導により、生活習慣病の改善・予防を行いました。特定保健指導の場にもなっています。参加者自らが行動変容できるように支援しました。H25年度から通信型を廃止し、新たに評価のための血液検査を実施します。	◎
		11	行	創造活動（適応指導教室）プログラム「クッキング」	文化館チーム				●					不登校児童生徒を対象に、専門講師が季節の果物や野菜をもとに、手作りご飯や食事の話などの講習及び野菜の栽培、自家栽培による収穫物を使つての調理などさまざまな体験を積み重ね、食を営む基礎を育てています。	庄内館は第1・3・5水曜、千里館は第1・3金曜に実施	不登校の児童生徒にとって重要となる人間関係を「クッキング」というツールを介して繋いでいくことから不可欠なプログラムとなっています。学校復帰の足がかりにもなっており、一定の成果を上げました。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年 期	少年 期	青年 期	壮年 期	中年 期	高年 期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現しよう	c 健康状態にあった食育の推進	12	行	寄り添い型学習・生活支援事業 生活自立支援プログラム「クッキング」	文化館チーム				●	●				不登校状況や、ひきこもり状況にある中 3～高校年齢相当の若者を対象に、専門講師が手作りご飯や食事の話などの講習及び野菜の栽培、自家栽培による収穫物を使つての調理など、食を営む基礎を育てています。	庄内館にて土曜日（月 1 回）に実施	学習支援と並行して、生きていく力を身につけていく意味で有効なプログラムとなっています。	○
		13	行	公民分館活動への支援	中央公民館 蛸池公民館 庄内公民館 千里公民館		●	●	●	●	●	●	●	公民分館による春秋講座運営に際して、情報提供や指導助言を行っている。	食の不安を改善する話 (東丘公民分館) 3 回 延べ 70 人 アロマ&ハーブでハッピーライフ！ (上野公民分館) 2 回 延べ 40 人 おいしい野草の見分け方 (少路公民分館) 1 回 17 人 焙りたてコーヒー講座 (東泉丘公民分館) 1 回 20 人 パンとキッシュ作り (北緑丘公民分館) 2 回 延べ 20 人 ハーブの楽しみ方 (大池公民分館) 1 回 30 人	分館講座の支援を通じて、市民が主体的に地域や食との関わりを学ぶ機会を設けることができました。	○
		14	行	千里公民館健康づくり推進事業	千里公民館	*				●	●	●	●	老化を防止する運動や、栄養バランスがとれる食事について学ぶ講座を開催し、地域住民の健康増進を図ります。	「身近な体の健康を考えよう」 (回数：3 回、参加者：延べ 67 人) を開催しました。	老化を防止するために必要な食事等について、地域保健課と連携して講座を展開することにより、地域の健康増進に貢献することができました。	○
		15	行	糖尿病教室	市立豊中病院栄養管理部				●	●	●	●	●	糖尿病教室の 7 回シリーズの内 2 回で「糖尿病食事療法：基礎編」「糖尿病食事療法：応用編」を開催しています。	開催回数 49 回。参加人数 306 名	糖尿病教室参加対象患者さんの範囲拡大や糖尿病透析予防指導管理指導も今後は取り組んでいく。	○
		16	行	慢性腎臓病教室	市立豊中病院栄養管理部				●	●	●	●	●	慢性腎臓病教室の 4 回シリーズの内 2 回で「慢性腎臓病の食事療法の実際：総論」「慢性腎臓病の食事療法の実際：各論」を開催しています。	開催回数 4 回。参加人数 63 名	毎回の受講者のアンケートも参考にテキストや講義内容を更新して、よりわかりやすく実生活にむずびつきやすい講義になり継続している。	○
		17	行	とよなか倶楽部（糖尿病患者の会）	市立豊中病院栄養管理部				●	●	●	●	●	糖尿病患者の会の一活動として、糖尿病食の講習及び調理実習を行い、糖尿病食への理解を深めています。	開催回数 1 回 参加人数 22 人	食事の作り方を解りやすく説明し調理講習。自宅でも応用しやすい満足感の高い料理を提案している。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現しよう	c 健康状態にあった食育の推進	18	行	がん治療セミナー	市立豊中病院緩和ケア委員会				●	●	●	●	●	がんサポートプログラム「がん治療セミナー」の一環として7回の内1回で「がんと食事の関係」について理解を深めています。	参加人数 26 名	参加される患者さんごとに掘り下げるテーマを変更、職種連携で講義行うなど患者さんの要望を取り入れ内容変更を行っている。 今年は患者さん各個人の疑問を解決することを主軸とした内容編成にした結果、出席している患者さんの個々の要望に答えやすくなった。	○
		19	行	難病患者療養生活支援	保健予防課	*	●	●	●	●	●	●	●	難病患者の在宅療養生活の質の向上のために保健師や栄養士等が相談に応じています。	訪問、面接、電話等で相談に応じています。相談件数 延 3,343 件	今後難病事業の制度改正が予定されており、相談者数の大幅な増加が考えられるため、ニーズに対応できるような体制の検討が必要です。	◎
	d 調理技術や食に関する知識の習得	1	行	出前講座	広報広聴課		●	●	●	●	●	●	●	市民（団体）や学校等が主催する、食育や生活習慣病の予防（食事編）に関する講座に、講師（市職員）を派遣しています。申込制。	年間講座実施数 149 件、参加者数 5,289 人うち食育関係テーマ 6 件、参加者数 670 人	継続して市民の参加を呼びかけます。	○
		2	行	地域への食育推進	保健企画課		●	●	●	●	●	●	●	食育への理解が進むよう、食育情報の提供や講師紹介、講師派遣を行っています。	食育推進協議会や食育推進計画連絡会議において積極的に意見交換を行うことで、食育の取り組みに必要な情報を確認し提供しました。	関係各課や各団体などが食育にとりくみやすい環境づくりに役立つと考えています。	◎
		3	行	出前教室	上下水道局経営企画課				●					小学4年生及びその保護者を対象に、水道水ができるまでの過程や、各家庭に水道水が配られる仕組みなどを、簡単な実験を行いながら説明します。 食の原点となる「水」への関心を深め、水道水が安全な飲み物であることを理解してもらうことがねらいです。	実施校数 4 2 校 参加者数（児童）3,530 人 "（保護者）145 人	市内全校で実施することができました。食の原点である「水」への関心を持ち、水道水が安心安全であることを、児童保護者に理解してもらうことができました。	○
		4	行	中央公民館食育推進事業	中央公民館			●	●	●	●	●	●	食育の推進、生活習慣病予防・改善、介護予防のための講座・講習会などを実施します。	ライフステージ別食育講座 壮年期対象 15 人 ライフステージ別食育講座 中年期対象 7 人 ライフステージ別食育講座 高年期対象 11 人	ライフステージ別に実施。 年代別に実施した事により、互いにコミュニケーションが取りやすく、交流しながら食を学んでおられた。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現しよう	d 調理技術や食に関する知識の習得	5	行	蛭池公民館 食育推進事業	蛭池公民館			●	●	●	●	●	●	食育の推進、生活習慣病予防・改善、介護予防のための講座・講習会などを実施します。	年間5回 ①ほたる発・世界へ ベトナム家庭生活いろいろ話 参加人数19人 ②オリンピックの国 イギリスを食べよう 参加人数19人 ③夏休み子ども料理教室 参加人数16人 ④ほたる発・世界へ トルコいろいろ話 参加人数16人 ⑤ギリシャのクリスマスを食べよう 参加人数20人	料理に関する企画については、安定した市民ニーズがあり、さらに「食」についての関心を高めることができました。	○
		6	行	庄内公民館 食育推進事業	庄内公民館			●	●	●	●	●	●	食育の推進、生活習慣病予防・改善、介護予防のための講座・講習会などを実施します。	年間9回実施 ①家庭菜園 果菜類に挑戦 参加人数20人 ②女性の鯖料理教室 参加人数16人 ③夏こそ豚まん！地域の匠とともに豚まんをつくろう！ 参加人数18人 ④男のカツオづくし料理教室 参加人数16人 ⑤女性のイタリア料理教室 参加人数15人 ⑥手打ち讃岐うどんに挑戦 参加人数18人 ⑦おせち料理を作って家庭の温かさを伝えよう 参加人数16人 ⑧親子でクリスマスケーキをつくろう！ 参加人数14人 ⑨バレンタインチョコをつくろう 参加人数8人	料理講座は常に人気で、参加者の受講満足度もおおむね高いのが特徴です。 講座によっては定員の3倍の申込みもあり、食に対する関心の高さ、料理教室に参加する意欲の高さが伺えます。	◎
		7	行	千里公民館食育推進事業	千里公民館	*		●						食育の推進、生活習慣病予防・改善、介護予防のための講座・講習会などを実施します。	世界の料理を楽しみながら、異文化への理解を深めることを目的に「千里で世界の料理を楽しもう～フィリピンのクリスマス料理～」と題し、小中学生とその保護者を対象とした講座を開催しました。（開催回数：1回、参加者：10人）	子どもが参加しやすい工程で、日本では珍しい食材もあり、親子で料理を楽しみながら異文化に触れることができました。今後は各学校へちらしを配布する等、広報の手法を再考し、受講者増加に努めます。	◎

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現しよう	d 調理技術や食に関する知識の習得	8	地	男の生活力養成講座	とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ							●	●	団塊の世代の男性を主な対象とする、自己実現と食の自立を始めとした生活力の養成をめざす講座を開催しています。	なし		△
		9	地	男の料理教室	とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ			●			●	●		父親と子どもの料理教室を開催しています。親子が一緒に料理をつくることで料理の楽しみと健康への関心を深め、男性の育児参加、家事参加を呼びかけます。	イクメンをテーマに4回連続講座「つながろうパパ友」を開講。第4回目に「パパのごはん」として親子料理教室を実施しました。 ・事業回数：1回 ・参加人数：父と子ども 10組	イクメン講座のなかで、子どもと一緒に楽しく料理することによって、父親の家事、育児への参加意欲を高めました。4回の連続講座のなかで自主グループ「とよパパ」ができたので、今後も父と子の料理教室など実施の可能性があります。	◎
		10	地	男性の料理教室	社会福祉協議会						●	●	●	男性の食育や自立を目的に実施しています。	1回 参加者数 20人	継続実施	○
		11	地	食育に関する講習会	老人クラブ連合会								●	講師を招いて講習会を開催し、食育に関して学ぶ機会をつくっています。	170名の老人クラブ会長が集まる研修会にて、食育の講習を実施	更にキメ細かく市内各地で開催したい	○
		12	地	料理教室	老人クラブ連合会								●	高齢者対象の料理教室を老人会各地区で実施しています。	実施	更に内容を充実したい	○
		13	地	各種の食に関する講座	豊中地域活動栄養士会トゥデイ		●	●	●	●	●	●	●	様々な年代を対象にした食に関する講座を通して、健康づくりの支援と食に関する情報提供を行い、食育を推進しています。	くらしかんグループ活動、小学生、中学生、地域の会食会、市民講座、公的機関との共催により料理教室等で食育を実施しました。59回、946名	小、中学生の親子クッキングでは、調理に携わることにより食への関心を高める働きかけが出来ました。幅広い年齢層への食育の推進が出来ました。	○
		14	地	料理教室	とよなか消費者協会 豊中商工会議所豊中市小売市場連合会事務局							●	●	共催で料理講習会を開催しています。	25年3月14日(木)「弥生に楽しむイタリアン」 くらしかんで春の食材を使ってイタリア料理講習会を実施	市民20名、スタッフ9名参加で食の楽しみを啓発できた。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現しよう	e 適切な食を提供するための環境整備	1	行	給食施設への食育推進支援	保健企画課		●	●	●	●	●	●	●	食育に関する情報を提供するなどして給食施設における食育推進を支援しています。	特定給食施設に対するメール情報配信「給食通信」などで食育に関する情報を提供しました。	特定多数人数に対して継続的に食事を提供する施設へ食育情報を提供することで、効率的な食育推進を行うことができます。	◎
		2	行	学校・保育所・幼稚園・保護者等への食育推進	保健企画課			●	●					①食育情報を提供しています。 ②食育授業への助言をしています。 ③指導教材の紹介をしています。 ④講師紹介をしています。 ⑤食育体験学習先紹介しています。	23年度で完了		完
		3	行	食育指導者研修会	保健企画課		●	●	●	●	●	●	●	学校・幼稚園・保育所関係者、給食関係者、食ボランティア、健康づくり関係者などを対象に、食育に関するライフスキルを育む手法など食育実践に役立つ、指導者のための研修会を開催しています。	23年度で完了		完
		4	行	地域活動栄養士の育成・支援	保健企画課		●	●	●	●	●	●	●	保健所が進める食育に、地域活動栄養士会トゥディの食育活動を連動させ、活動についての助言や情報提供、指導媒体の開発支援、活動先の紹介を行っています。	23年度で完了		完
		5	行	子どもの健康づくりネットワーク会議	保健企画課		●	●	●					食育を通じた子どもの健康づくりを目的に、関係機関が集まりそれぞれの機関が食育として何が出来るか、連携して何が出来るかを話合っています。 構成員は教育委員会、学校給食関係者、健康づくり関係部局、地域活動栄養士会、子どもの食を考える会、健康づくり推進員会、花と緑のネットなどの代表者です。	23年度で完了 (小学生メニューコンテストは、市保健所と市教育委員会の共催で実施し、食育推進協議会、食育推進連絡会議委員により審査を行います。)	この会議により立ち上げた小学生メニューコンテストは児童の食育推進の一助となりました。	完
		6	行	健康づくり推進委員会への支援	地域保健課		●	●	●	●	●	●	●	活動への交付金の支払、講師派遣、活動情報の提供などを行っています。	食の育みフォーラムと共催し、「まさかの時の食育を考える」と題して、食育から防災を考えることで、減災につなげていくことをめざしたフォーラムを開催しました。 参加者 134人 また、健康教室などを地域で開催しています。	食育に関係する団体と共催・連携して行ったことは評価に値すると考えています。今後も機会あるごとに情報提供を行っています。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現しよう	e 適切な食を提供するための環境整備	7	行	子育てサークルの育成	保育幼稚園室			●						「ほっぺクラブ」は地域の人材を活用し子育てボランティアの育成・支援を行い、その力を地域に広げています。	オリーブの会 14 回 えくぼの会 12 回	活動が定着しているので、多くが参加しています。	○
		8	行	子育て・子育てネットワークづくり	保育幼稚園室 社会福祉協議会			●						地域子育て支援センター、地域支援保育士が中心になってコミュニティーソーシャルワーカーとともに各小学校区の地域活動を支援するために、関係機関や団体との連携を図りネットワークづくりを進めています。	全校区開催しました。	ネットワーク作りの会議が積み重なっているため、子ども支援の課題が各連携機関の中で意識確認でき、支援強化になっています。	○
		9	行	地域教育協議会（すこやかネット）	地域教育振興室		●	●	●	●	●	●	●	市内全中学校区に設置されている地域教育協議会に対して、市が取り組んでいる子どもにかかる事業の情報の提供や、豊中市内全中学校区地域教育協議会の「交流会」「連絡会」の実施についての支援を行っています。	連絡会の開催4回 （各中学校区代表者） 全体交流会の開催1回（90人）	同左	○
		10	行	公民館登録グループ活動支援	中央公民館 蛸池公民館 庄内公民館 千里公民館				●	●	●	●	●	①料理グループなどに活動場所の確保を行っています。 ②グループ活動成果の社会還元として、グループ体験講習会への支援および公民館講座への講師登用を行っています。	料理関連の活動に取り組む登録グループが行う食と健康にかかわる料理講習会等の実践活動への支援を行いました。	食に関する生涯学習を支援することにより、市民の食育への関わりを充実させ、地域における食育への関心を高めることができました。	○
		11	教	技能員研究会	保育幼稚園室			●						保育所・あゆみ学園・しいの実学園の技能職員と担当保育所長及び保育幼稚園室栄養士が、給食作りを中心に食育と給食衛生を考える。保育における子どもの安全と環境整備を考え、環境保全・食育に関わる研究の推進をはかっています。	「食育」「環境整備」「地域支援」をテーマとし、3つのグループに分かれる。保育所ごとに年間計画をたて実施後、現状の把握、反省、新たな課題を4期に分けて活動し、その都度集約して記録している。	それぞれの保育所・施設では保育のなかに食育・環境整備・知己支援をどのように関わっているか情報共有することができた。	◎
		12	教	職員への教育	豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						職員が終礼時に、給食献立に関連する栄養・文化・歴史等について調べ発表しています。	食育について関心が向いているので保育の内容にも取り入れるように考慮している。 野菜の栽培の仕方や調理方法など調べ勉強しています。	子どもがおかれている現状をふまえ、資料の更新や食育の考え方をより深める。	◎

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅱ 生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現しよう	e 適切な食を提供するための環境整備	13	地	男女共同参画推進活動への支援	とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ					●	●	●	●	グループ・団体活動の情報収集・提供、自主グループ活動育成・支援、グループ活動活性化のための講座の開催、すてっぷ登録団体助成金交付、グループ活動リーダー養成、ワークスペース・機器等の提供、交流ネットワークの機会提供、ネットワーク協議会の組織化などを行っています。	韓国語講座の一環として、韓国料理教室を実施しました。 ・事業回数：4 回 ・参加人数：50 人	韓国語講座から多数の受講者が参加しました。言葉を学ぶだけではなく、韓国料理を通して韓国の食文化、韓国女性の生活、健康づくりについて考えました。韓国語講座から生まれたすてっぷ登録団体、自主グループなどがあり、今後も韓国料理教室など実施の可能性がありま	○
		14	地	豊中市学校歯科医会研修会	豊中市学校歯科医会			●	●					幼・少年期のさらなる健康増進に寄与するため、学校歯科医師が学校保健活動でより良い指導・助言を行うのに必要な研修を行っている。食育についても取り上げています。	歯科医師を講師として招き「日常臨床における外傷に対する処置について」というテーマで講演会を開催。	校医以外に教育委員会職員にも受講頂き、熱心な質疑応答が行われた。今後も引き続き実施していきたい。	○
Ⅲ おいしく、楽しく、食事をしよう	a 交流を深める場や食事をする機会の提供	1	行	お菓子づくり教室	豊中人権まちづくりセンター				●					食育に関し季節にあった食材を使いながらお菓子づくり、調理の楽しみを体験しています。また、グループの参加者がお互いに協力しあって作業をすることにつながりづくりのきっかけとしています。	からだによいもの、季節のものを意識して、材料を用意し、お菓子を作りました。 また、講師には、素材について解説してもらい、栄養についても知る機会になりました。 実施回数 7 回 参加者数 102 人	講師と連携して、“おいしいのはあたりまえ、からだによいお菓子”というコンセプトのもと、素材の栄養や旬のものなどを大切にすすめました。	○
		2	行	ささえあい参加型食事会	豊中人権まちづくりセンター							●	●	園芸ボランティアが育てた老人憩の家の作物や身近な食材で成人病予防等健康管理・高齢者等の食事に配慮した調理ボランティアによる調理を学び皆で会食しています。	実施回数 20 回 参加者数 788 人	おおむね月 2 回の実施で、定着してきています。食事の提供だけではなく、外出して同年代の人々と会食するため、とじこもり防止にも効果があると考えています。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅲ おいしく、楽しく、食事をしよう	a 交流を深める場や食事をする機会の提供	3	教	保育、教育の中で交流体験機会の提供	各保育所・園 幼稚園 保育幼稚園室 小学校			●	●					①野菜や稲の栽培、収穫物による調理などさまざまな体験を積み重ね、食を営む基礎を育てています。 ②もちつき等の季節行事を催しています。 ③保護者に、実施状況を報告したり、参加・協力の場を設けることで、家庭への情報発信及び食文化の伝達や交流を行っています。	随時実施	食に関わる様々な体験を共有することで子どもと子ども、子どもと大人、大人と大人など人と人がつながっていける子どもの姿から親子の会話も食に関する話題が多くなり家庭においても「食」への理解が深まりました。	◎
		4	地	世代間交流	社会福祉協議会 校区福祉委員会 民生・児童委員		●	●	●	●	●	●	●	世代をつなぐ学習や交流を促進する場。いも掘り、もちつき、料理教室等を通して食文化の伝達と交流を行うプログラムを実施しています。	小学校の土曜日休日を利用して「土曜あそび」に老人会としていろいろな遊び道具を持参し交流を行った。 165回 参加者数 36012人	継続実施	○
		5	地	ひとり暮らし高齢者の会食会	社会福祉協議会 校区福祉委員会								●	みんなで会食をすることで、孤立感を防ぎ、仲間作りを行っています。	37校区で開催 年回数 338回 のべ参加者数 11212人	継続実施	○
		6	地	ミニデイサービス	社会福祉協議会 校区福祉委員会								●	虚弱高齢者を対象に手作りミニディサービスを実施しています。食育に関する相談も行なっています。	6校区で開催 年回数 99回 のべ参加者数 1333人	継続実施	○
		7	地	小学校との交流	老人クラブ連合会				●				●	蛸池小学校花壇に野菜や花を植えて学習の教材として提供しています。じゃがいも、さつまいも掘りを児童の皆様にいただいています。毎年8月には「終戦記念日」前後に当時をしのいで「すいとん」を作り、500人分を用意します。中身のなす、じゅうはちささげ、ねぎ等は学校花壇の畑で出来た野菜を使用します。	ジャガイモ・サツマイモ掘りには約100名が参加 すいとんづくりには約400名が参加	更に内容を充実したい	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅲ おいしく、楽しく、食事をしよう	b 楽しい食事の促進	1	行	地域教育協議会（すこやかネット）	地域教育振興室		●	●	●	●	●	●	●	各中学校区地域教育協議会へ委託。中学校区を単位として、様々な世代が関わりながら、料理講座や食育をテーマにした講演会等を開催し、世代をつなぐ事業を展開しています。	中学校区を単位として、講演会やフェスタの中で食につながる取組みを行いました。	同左	○
		2	行	地域子ども教室	地域教育振興室				●					各小学校区地域子ども教室へ委託。小学校区を単位として、子どもが地域の大人から料理やマナーなど、様々なことを交流しながら学んでいます。	小学校区を単位として、子どもが地域の大人から料理や食文化についての講義を受けるなど、様々なことを交流しながら学びました。	同左	○
		3	行	青少年野外活動事業	青少年育成課				●	●				共同で野外活動をする中で食事を通した交流を行っています。NPO 法人豊中市青少年野外活動協会に委託 (キャンプ名：対象学年) ①ジュニアサマーキャンプ（小学 5、6 年） ②サイエンスキャンプ（小学 3、4 年） ③ファミリーキャンプ（小学生とその家族） ④キャンピングスクール（小学 3、4 年）	共同で野外活動をする中で食事を通した交流を行いました。 (キャンプ名：参加人数) ①ジュニアサマーキャンプ：18 人 ②サイエンスキャンプ：25 人 ③ファミリーキャンプ：37 人 ④キャンピングスクール：39 人	多数の応募があり、夏の定例事業として定着しています。食事の前の歌や準備など一緒に活動することで交流がよく行われています。	○
		4	行	青少年自然の家主催事業（宿泊事業）	青少年育成課			●	●	●	●	●	●	小学生を対象とした野外活動事業を実施。竹で作った食器（箸、コップ）を使用したり、季節にあった料理作りを子どもたちで話し合って企画したりしています。 また、日帰りで気軽に野外での創作活動、自然体験活動に参加できる事業を実施。冷蔵庫を使わないアイスクリーム作りや、たき火料理を行いました。	対象別・実施内容 ○小学生 （能勢の夏を満喫、クリスマス、節分、わっばるキッズ） 全 8 回 266 人 ○中高生 （アウトドアクラブ） 全 8 回 184 人 ○家族・グループ等 （里山フェスタ、いもっこクラブ、野草、ほたる、餅つき、ひな祭り、星空まつり、わっばるの森をつくらう） 全 13 回 1,215 人 ○一般・保護者 （ワークキャンプ、キャンプテクニック） 全 3 回 189 人	○「季節」を取り入れた料理は大変好評でした。 ○ダッチオーブンを使った「里山の料理」鳥のまる焼き、野草料理のプログラムを展開し、体験活動としての成果がありました。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅲ おいしく、楽しく、食事をしよう	b 楽しい食事の促進	5	行	三世代交流事業	青少年育成課			●	●	●	●	●	●	シニア自然大学の方に教えてもらいながら、料理や工作を行うことで、世代間交流を促進します。NPO 法人シニア自然大学校、高齢者支援課との協働事業。	参加人数 ①40人：春の野山は楽しいな ②36人：初夏の里山で昆虫と遊ぼう ③54人：みんなで楽しく川遊び ④19人：秋空のもとみんなで遊ぼう	野草を使った料理などを通して、世代間の交流がよく行われており、参加者の満足度は高いです。	○
		6	教	体験型食育推進事業 「わくわく食育プロジェクト」	教育推進室			●	●					わくわく食育プロジェクト 「幼小連携親子料理教室」 「世界を食べよう親子料理教室」 「お弁当づくり親子料理教室」の開催	わくわく食育プロジェクト 「幼小連携親子料理教室」1回 「世界を食べよう親子料理教室」5回 「お弁当づくり親子料理教室」2回開催	専門家講師等による親子料理教室やお弁当づくり教室は毎回参加者に大変好評であった。食に関する情報を正しく理解し、親子でおいしく楽しく調理・食事することで身近な食に関する関心意欲を高めることにつながった。今後も継続の必要性があります。	○
	c 食を通じた地域活性化の促進	1	行	「うちのお店も健康づくり応援団の店」の普及・啓発	保健企画課		●	●	●	●	●	●	●	「うちのお店も健康づくり応援団の店」の普及・啓発を行っています。	広報とよなかに「うちのお店も健康づくり応援団の店」のコラムを掲載することなどにより普及を呼びかけました。	市保健所の設置により、これまでより広く市内の飲食店に啓発を行うことができました。	○
		2	地	とよなかおやつ宣言	豊中市地域雇用創造協議会	*	●	●	●	●	●	●	●	市内の和洋菓子、パン店のうち、地域貢献意欲の高いお店をPRする活動。市民に対しては地域のお店を知ってもらい、そのお店で買い物をすることで、間接的に地域貢献できる仕組み。	豊中おやつ宣言（とよせん）」マップの作成やスタンプラリーの実施、3月には市内スイーツ商品販売促進イベント開催（来場者数：約1700人）を実施した。	イベントを通じて幅広い市民に地域に美味しいお店がたくさんあることを知ってもらう地域再発見につながった。	完

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅳ 食べるもの、食えることを大切にしよう	a 体験機会の充実	1	行	施設見学	広報広聴課		●	●	●	●	●	●	●	市民団体等を対象に、学校給食センターや緑と食品のリサイクルプラザなどの見学にご案内しています。	年間実施数 1 件、総参加人数 20 人 うち給食センター1 件、計 20 人	継続して市民の参加を呼びかけます。	○
		2	行	収穫体験	障害福祉課					●	●	●		市立障害者通所施設等の利用者が、野菜の収穫を体験します。	施設内の菜園等で野菜などの栽培や収穫体験に行ってきました。	食への関心を深める貴重な体験になっていると思われます。	○
		3	行	食育スタディーデー みんなで収穫祭	保健予防課				●		●	●		(NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 協力) ・緑と食品のリサイクルプラザ見学と「とよっぴー」製造の話 ・収穫体験（大根、白菜、かぶなど） ・収穫物をスタッフが調理したものを食べる	1 回 60 人	小雨の中での実施で、雨天のため参加者アンケートをとることもできませんでしたが、欠席者も途中で帰る人もなく、例年通り、満足度の高い事業だったと思われます。	○
		4	行	市民農園	農業委員会事務局					●	●	●	●	①募集から斡旋、契約事務 ②苦情処理 ③栽培講習会 ④運営費助成事務等 ①～④の事業推進による農地の活用及び都市農業・食育の啓発をはかっています。	1 区画約 15 m ² を 23 か月利用 29 農園 1,209 区画	市民が余暇を楽しむ場として定着していますが、近隣とのトラブル等が増加し、市が時間を取られることが多くなっています。	○
		5	行	農業祭	農業委員会事務局 豊中市農業経営者協議会		●	●	●	●	●	●	●	年 1 回 11 月に、農協等と実行委員会形式で実施しています。市内で栽培された野菜や観葉植物等の即売、もちつき大会等の実施による都市農業・食育の啓発を行っています。	11 月 23 日（祝） 豊島公園多目的広場 来場者数 3,000 人	市民の豊中の農業に対する再認識の場となっています。	○
		6	教	給食センターの見学の受入れ（市民向け）	学校給食室						●	●	●	給食センターの様子を見学し、学校給食への理解を深めています。	4 団体を受入れ	給食への理解と食への関心を深めてもらうことを目的として実施しています。	○
		7	教	保育、教育の中で交流 体験機会の提供	豊中市私立幼稚園連 合会加盟幼稚園 豊中市民間保育園連 合会加盟保育園			●						○農家と交流しています。 ○魚のさばき方の見学をしています。 ○年齢に合った調理体験・収穫体験を行っています。 ○季節行事：らっきよ漬・栗拾い・干柿づくり・収穫祭などを行っています。 ○茶道体験をしています。	○サツマイモの収穫・ミニトマトの各自栽培・収穫など体験 ○サンドイッチやおでんパーティーなど行い、実施したクッキングの様子を写真（コメント入り）で保護者に情報提供	栽培や生長の過程を知ることができ興味をもつ様子が見える。又調理を体験することで家庭で積極的に手伝う子どもが増えた。	◎

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅳ 食・食べるもの、食・食べること大切にしよう	a 体験機会の充実	8	地	自然と親しむ事業	社会福祉協議会 校区福祉委員会		●	●	●	●	●	●	●	いも掘り等の土に親しむ事業を校区の実情に合わせて実施しています。	8 校区で開催	継続実施	○
		9	地	市民レングまつり、野菜もぎとり園	市民レングまつり実行委員会 農業委員会事務局		●	●	●	●	●	●	●	市民レングまつり会場で野菜のもぎとり園を実施し、市民に土に親しんでもらい、自らが収穫する楽しみと新鮮野菜を食する喜びを提供するとともに市民と農家との交流を図っています。	4 月 2 9 日(日)に実施 10,000 人参加	都市化の進んだ当市において、自然とふれあう貴重な機会であり、市民に好評でしたが、平成 2 4 年度をもって終了しました。	—
	b 環境教育・環境学習の促進	1	行	環境情報サロンにおける情報提供等業務	環境政策室		●	●	●	●	●	●	●	(NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 に委託) ①環境関連の図書・雑誌の閲覧、インターネットを活用して環境関連情報の発信・提供・アドバイスなど。 ②講座の開催。情報交流の場の提供。	来館者数 4,857 人	環境関連の図書・雑誌の閲覧、インターネットを活用した環境関連情報の発信・提供・アドバイスをを行ったほか、講座の開催や情報交流の場も提供しました。平成 25 年度からは、環境交流センターに機能を統合します。	○
		2	行	とよなか市民環境展	環境政策室 NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21		●	●	●	●	●	●	●	(豊中市教委・とよなか市民環境会議・NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 と共催) 市民、事業者、行政の環境問題解決に向けての取り組みの発表・交流の場。概ね、12 月第 1 もしくは第 2 週に実施しています。	「一歩ふみこんで考えよう！くらしの中のエネルギー」 参加者数 2,320 人	市民、事業者、行政の環境問題解決に向けての取り組みの発表・交流の場を設けました。平成 22 年度までは市民会館、H 23・24 年度は豊島体育館で毎年 12 月上旬に開催しました。	○
		3	行	環境学習の推進	環境政策室		●	●	●	●	●	●	●	①平成 16 年 6 月 28 日設置した環境情報サロンの運営 ②交通環境学習の実施 ③子どもエコクラブの支援 ④出前講座の実施 などを行っています。	環境フォーラム 2012 の開催 参加者数 79 人 ②各団体申請により出前講座を実施	毎年 9 月に環境フォーラムを実施し、講演会などにより市民・事業者の方へ環境に関する話題を提供しました。また、市民を対象に出前講座を実施しました。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅳ 食べるもの、食べることを大切にしよう	b 環境教育・環境学習の促進	4	行	市民による環境活動への支援（豊中アジェンダ 21 の普及・促進）	環境政策室		●	●	●	●	●	●	●	「とよなか市民環境会議」の事務局として、ネットワーク組織としての活動、ならびに構成団体である市民団体・事業者が主体的に取組む環境活動の促進を支援します。 また、「豊中アジェンダ 21」の推進組織である「NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21」が主体的に行う普及・啓発活動や実践活動を支援しています。	とよなか市民環境会議総会の開催 参加者数：137 人 とよなかエコ市民賞表彰式の開催 参加者数：96 人	「とよなか市民環境会議」の事務局として、総会の開催や環境活動の表彰を行ってきました。また、「豊中アジェンダ 21」の推進組織である「NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21」の活動の支援を行いました。	○
		5	行	国連・持続可能な開発のための教育（ESD）の 10 年の取組み	環境政策室 NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 他		●	●	●	●	●	●	●	庁内外に向けて ESD についての学習会・研修等を実施し、ESD の概念の周知とともに、各分野と連携・協働しながら、ESD の視点を取り入れた取組みを進めています。	ESD セミナー（4 回）参加者：89 人 ESD リソースセンターweb による情報発信等	エコライフセミナーの開催や、ESD リソースセンターweb の運営を行うとともに、庁内外との関係団体・部署との定期的な情報交換を行いました。	○
		6	行	生ごみ・剪定枝たい肥の配布・頒布	公園みどり推進課 NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21・花と緑のネットワーク		●	●	●	●	●	●	●	学校給食センターから出る調理くずや給食の食べ残しに、公園や街路樹から出る剪定枝をチップ化したものを混合したい肥化しています。できあがったたい肥（とよっぴー）は土壌改良材として、学校・保育所、市内などの農家、各種イベントなどで市民などに配布・頒布しています（アジェンダ 21 に委託）。	年間約 120 トン	豊中市の学校給食から出る生ごみ全量のたい肥化に成功し、活用場所への安定した供給に努められています。	○
		7	行	エコクッキング	減量推進課					●	●	●	●	市民の皆さんの「もったいない」の意識を高め、食品ロス・ゼロに向けた取り組みを推進します。具体的には、料理の際、食材をできる限り全て利用するエコクッキングを開催します。	調理実習講座は計 3 回実施。 「親子でわくわくエコクッキング」参加者：12 組 28 人 暮らしの安全・安心講座「エコクッキング」（豊中市婦人団体連絡協議会、豊中市教育委員会と共催）参加者：28 人 3R 実践市民講座「エコクッキング」参加者：15 人（別の日に座学の食育講座も実施。参加者：8 人）	調理実習講座を通じ参加の市民に「もったいない（食べ残し・食品ロス）」について考えてもらう機会になりました。今後も継続実施していきます。（25 年度は 4 回実施予定）	◎

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
IV 食べるもの、食えることを大切にしよう	b 環境教育・環境学習の促進	8	行	sumusumu（スムスム）の発行	減量推進課	*	●	●	●	●	●	●	●	収納のコツ・豊中市内で1日に排出されるなどごみの量・ごみの減量やリサイクルに取り組む団体の紹介など、様々な視点からごみの減量について掲載している小冊子です。 食育関連では、食材の無駄を減らすエコレシピや豊中市内で1日に排出される手つかずの食品の量などを掲載しています。 豊中市提案公募型委託制度により、NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21と協働で作成しました。	発行 4000冊 配布先：環境展 リサイクル交流センターでの講座参加者 公共施設での配布など	ごみ減量サポーターによるアンケートを実施したところ概ね好評でした。 平成25年度は子育て関係部局と連携し、配布を維持していきます。	○
		9	教	保育、教育の中で食の循環に関する取り組み	各保育所・園 小学校 あゆみ学園・しいの実学園 豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●	●					保育・教育の一環として行う野菜や稲の栽培時に、野菜くず・落ち葉を活用したたい肥を使うことで、ごみの減量に取り組むとともに、食の循環を体現し自然の恵みに感謝する気持ちを育んでいます。	季節折々の野菜（いちご、さつまいも）や稲の栽培を年間計画して実施。収穫したものを給食の食材に使用したりしています。 取り組みたい課題だが具体的にはできていない。落ち葉を畑に肥料として使う。	たい肥作り菜園活動、収穫、クッキングと一連の体験をすることで「食を営む力」を育むことに努めています。 園の畑なので成長の過程を身近に感じることができました。 子ども達と落ち葉を拾うことは良い。	○
		10	教	とよっぴー（生ごみ・剪定枝たい肥）で作った市内農作物を給食食材として使用する「食のリサイクル」の取り組み	保育所			●	●					とよっぴー（給食から出る生ごみ・剪定枝たい肥）で作った市内農作物を給食で使用しています。	保育所では、玉ねぎ、じゃいもを使用しています。	地産地消のとりくみが大切なことは保育所全体に浸透できている。市内の生産者から届く食材は形や虫食いなど味も含め品質が悪く、いたんだところを取り除く作業に大幅に時間を要し困難を極めました。	◎
					学校給食室			●	●					とよっぴー（給食から出る生ごみ・剪定枝たい肥）で作った市内農作物を給食で使用しています。	全小学校 41校で実施	安心・安全な食の提供と地産地消の取り組みとして有効です。	○
		11	地	豊中みどりの交流会	公園みどり推進課				●	●	●	●	●	市民や市民団体との協働により、小学校、保育所や授産施設等でみどりのカーテンづくり（ゴーヤの栽培）の取組みを支援しています。収穫したゴーヤは、小学校などにおいて、食育として活用されています。	小学校 34校 保育所・授産施設等 35施設	みどりのカーテンづくりに取組む小学校等の数が増加していることから、取組みに対する理解が得られているものと考えられます。	○

基本 目標	基本 方針	事業等			所管	新規*	妊 娠 期	幼 年 期	少 年 期	青 年 期	壮 年 期	中 年 期	高 年 期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今 後 の 方 向 性
IV 食 べ る も の 、 食 べ る こ と を 大 切 に し よ う	b 環 境 教 育・ 環 境 学 習 の 促 進	12	行	緑と食品のリサイクル ブラザ見学対応	NPO 法人とよなか 市民環境会議アジェ ンダ 21・花と緑のネ ットワーク 公園みどり推進課		●	●	●	●	●	●	●	見学者に対する有機性資源循環の仕組み と食の重要性の啓発を行っています（ア ジェンダ 2 1 に委託）。	20 回、633 人	農体験学習に合わせたもの には安定した需要があり、学校か らの見学の際には目に見える 形でたい肥の活用を理解して もらうため、紙芝居をするなど 工夫した内容としています。	○
		13	行	たい肥化講習会	NPO 法人とよなか 市民環境会議アジェ ンダ 21・花と緑のネ ットワーク 公園みどり推進課				●		●	●	●	家庭向けたい肥づくり講習会を行うこと により、生ごみの発生抑制、家庭菜園で のたい肥活用を推進しています（アジェ ンダ 2 1 に委託）。	23 回、207 人	定期的な開催は、少人数ではあ りますが、密に参加者と話し合 うことができ、好評を得ていま す。 また、啓発イベント時には、生 ごみたい肥づくりの実演も行 いました。	○
		14	行	野菜作り講習会	NPO 法人とよなか 市民環境会議アジェ ンダ 21・花と緑のネ ットワーク 公園みどり推進課						●	●	●	有機性資源を活用した上手な野菜づくり の講習会を開催しています（アジェンダ 2 1 に委託）。	3 回、38 人	たい肥を活用した減農薬・有機 性資源の講座等を開催するこ とで、自産自消を推進し、食へ の関心も高めています。	○
		15	行	講座型環境学習	NPO 法人とよなか 市民環境会議アジェ ンダ 21・花と緑のネ ットワーク 公園みどり推進課				●					希望する小学校等に出向いて、主に 4 年 生・5 年生を対象に、発生抑制や資源循 環を推進するため、米づくり・食品ごみ・ 地産地消などをテーマに講座を実施して います（アジェンダ 2 1 に委託）。	30 回、2,301 人	資源循環に対する関心の高ま りに伴い、学校菜園での活動に 合わせた講座型学習の機会が 増加しています。	○
		16	行	農体験学習	NPO 法人とよなか 市民環境会議アジェ ンダ 21・花と緑のネ ットワーク 公園みどり推進課			●	●		●	●		①希望する小学校等に出向いて、主に 4 年生・5 年生を対象に、農体験学習を実 施しています（アジェンダ 2 1 に委託）。 ②親子や児童・生徒などに対し、「とよ っぴー農園」において、野菜の植え付け・ 収穫などの食育体験活動の場を提供して います（アジェンダ 2 1 に委託）。	①農体験学習（小学校等）：22 回、 1,573 人 ②農体験学習（とよっぴー農園）： 19 回、684 人	児童を対象とした農体験学習 は安定した需要があり、親子を 対象としたシリーズ制の連続 講座や収穫イベントは、都市で 農業を学べるという点からも 好評です。	○

基本 目標	基本 方針	事業等			所管	新規*	妊 娠 期	幼 年 期	少 年 期	青 年 期	壮 年 期	中 年 期	高 年 期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後 の 方向 性
Ⅳ 食 べ る も の 、 食 べ る こ と を 大 切 に し よ う	b 環 境 教 育 ・ 環 境 学 習 の 促 進	17	地	とよっぴー祭り	NPO 法人とよなか 市民環境会議アジェ ンダ 21・花と緑のネ ットワーク 公園みどり推進課		●	●	●	●	●	●	●	豊中産もち米を使用した餅つきや、いも 掘り体験などを実施しています（アジェ ンダ 2 1 と共催）。	約 1,300 人	日曜日に開催したことや天候 が良かったこともあり、予想を 超える参加者数となり、大盛況 でした。	○
		18	地	とよっぴー倶楽部	NPO 法人とよなか 市民環境会議アジェ ンダ 21・花と緑のネ ットワーク						●	●	●	市のたい肥化事業の市民応援団を組織 し、有機性資源の活用を推進しています。 年会費 1,000 円で、主にたい肥の頒布日 に受付けています。また、年 4 回のニュー スレターを発行・郵送しています。	会員数：76 人	市のたい肥化事業を通して学 校給食の現状や市内の農家の 地産地消の取組みなどを知っ てもらい、食への関心を高めて います。	○
		19	地	生ごみたい肥化容器等 助成	NPO 法人とよなか 市民環境会議アジェ ンダ 21・花と緑のネ ットワーク 公園みどり推進課						●	●	●	家庭での生ごみのたい肥化活動を支援す るため、たい肥化容器等の購入費の助成 や資材などの提供をしています。	ダンボール資材：22 件、密閉バケ ツ：1 件 コンポスト：2 件、電動処理機：2 件	気軽に取り組めるダンボール 箱でのたい肥づくりを中心に、 継続して活動を支援していま す。	○
		20	地	たい肥使用野菜等の学 校等給食提供	NPO 法人とよなか 市民環境会議アジェ ンダ 21・花と緑のネ ットワーク 公園みどり推進課				●					豊中市内の農家の協力をいただき、たい 肥を使って育てた米・野菜を学校等の給 食に提供し、地産地消の取組みを行って います。	66 回、12 種類	協力農家の増加に伴う提供品 種の多様化、学校・保育所の給 食への玉ねぎの一斉提供など により、提供実績は飛躍的に伸 びています。	○

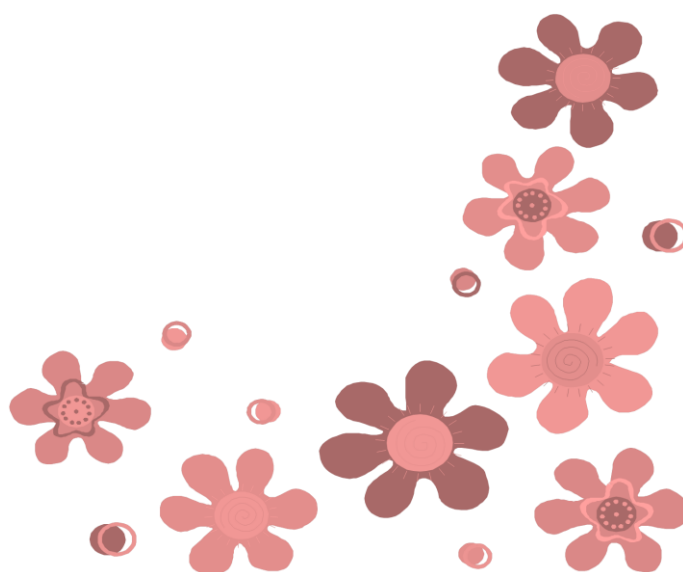
基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高齢期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
IV 食べるもの、食べんことを大切にしよう	c 地産地消の推進	1	行	豊中市農業経営者協議会との協働による都市農業の振興	農業委員会事務局					●	●	●	●	①部会ごとに事業を実施しています。 ○指導者部会―協議会の基本事項等について協議。 ○研究部会―豊中まつり、農業祭において新鮮野菜を安価で販売。市民農園技術指導、農業講座等を実施。 ○花卉部会―花卉の栽培技術の向上等の調査、研究を実施。 ②上記事業を実施している協議会との連携・協働による地産地消の推進、都市農業・食育の啓発を行っています。	豊中まつり、農業祭における豊中産野菜の直売 学校給食副食用野菜の出荷 農業講座、農業先進地技術交換会の実施 市民農園の技術指導（平成 24 年度 15 農園）	地産地消の協力者が少しずつ増加しています。	○
		2	地	地産地消バザー	とよなか消費者協会						●	●	●	地産地消の推進を目的に、くらしかんの「生活情報ひろば事業」の一環として実施している地産地消バザーを実施しています。 （とよなか消費者協会に委託）	毎月第 2 水曜にくらしかん生活情報ひろばで、とよなか消費者協会が核になって企画・担当「地産地消イベント」を開催しています。	地産地消を啓発できました。	○
		3	地	たい肥使用野菜等の頒布	NPO 法人与よなか市民環境会議アジェンダ 21・花と緑のネットワーク 公園みどり推進課						●	●	●	①地産地消の推進を目的に、くらしかんで開催している地産地消バザーに参加し、たい肥を使って育てた野菜等を頒布しています。（於：くらしかん、第 2 水曜日） ②単独での野菜等の頒布会（於：さわ病院、第 4 木曜日）や各種イベントでの頒布も行っています。	①12 回、736 人 ②18 回、1,181 人	たい肥を使って育てた野菜等を提供していただける協力農家の増加に伴い、安全・安心な野菜を届ける頒布会も充実・定着し、消費者からは好評を得ています。	○
		4	地	豊中産大根の試食	とよなか消費者協会 農業委員会事務局		●	●	●	●	●	●	●	農業祭で市民 300 人に大根炊きをして試食していただきました。	11 月 23 日（祝）豊島公園にて開催した農業祭（来場者数 3,000 人）において大根炊き（豊中産）を市民 300 人に試食していただきました。	地産地消を啓発できました。豊中産農産物の啓発とおいしく食べる喜びにつながる取り組みと考えます。	○
		5	地	桜井谷あおぞら朝市	桜井谷あおぞら朝市運営委員会		●	●	●	●	●	●	●	桜井谷地域を中心にした地場野菜等を販売する朝市を毎月第 1,3 土曜日（7 月、8 月は毎週）午前 9 時（夏期は 8 時半）から JA 大阪北部桜井谷支店駐車場で開催しています。	30 回開催	地産地消の推進として、十分に成果は上がっています。	○

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅴ 歯や口の健康を維持・増進しよう	a 歯科疾患の予防	1	行	①「2歳のにこりちゃん歯科健診」 ②「パパ・ママ歯科相談」	保健予防課			●		●	●			1歳6か月児健診の結果、リスクと判定された幼児とその保護者を対象に、個別相談や健診を、3会場で実施しています。	①「にこりちゃん歯科健診」24回 554人 ②「パパ・ママ歯科相談」24回 169人	食育推進の目標に沿った指導・助言を行っています。	○
		2	行	歯科健診時の保健指導	保健予防課			●		●	●			歯科医師や歯科衛生士による相談や保健指導を行っています。	歯科医師や歯科衛生士による相談や保健指導を行いました。	食育推進の目標に沿った指導・助言を行っています。	○
		3	教	歯科健診の実施	保育幼稚園室 教育推進室 豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園		●	●	●					虫歯の早期発見、受診勧告を目的とした歯科健診を実施しています。	年1回（5～6月）実施	お口の健康の維持・増進に努めました。虫歯の早期発見により子どもの健康増進に有効です。検診結果を見て保護者も関心が高まっています。	○
		4	教	歯みがき指導	豊中市民間保育園連合会加盟保育園 市立幼稚園・各保育所 豊中市私立幼稚園連合会加盟幼稚園			●						昼食やおやつの後に行う年齢に応じた歯みがき指導を行っています。	毎日昼食後に指導（ただし、年少児の集団指導は困難） 6月に磨き方の指導を実施し、その後磨き表を作成し、習慣づけるようにしています。	歯みがきを習慣づける大切な機会。継続が必要	◎
		5	地	お口の健康づくり講習会の普及	老人クラブ連合会								●	お口の健康づくり「ごっくん・にっこり体操」の普及のためDVDの配布	市民各単位クラブで講習会の実施と各所に配備したDVDで講習を実施	更にキメ細かく市内各地で開催したい	◎
		6	教	歯の保健巡回指導	(一社)豊中市歯科医師会 豊中市学校歯科医会				●					児童が歯の健康に関する知識と関心をもち、歯の健康の維持と病気の予防を实践できる能力を身につけることを目的とし、歯科衛生士専門学校の協力のもと、2年サイクルで市立全小学校に保健巡回指導を実施しています。	歯科衛生士専門学校4校により、22校にて実施。	今後も引き続き実施していきたい。	○
		7	教	幼稚園・保育所歯磨指導	(一社)豊中市歯科医師会			●						ライオン歯科衛生研究所のご協力のもと、豊中市内の幼稚園、保育所で歯磨指導を実施しています。	5園所にて、688人に実施。	例年30近い園所よりご応募を頂き、なかなかご希望に沿えない状況が続いています。	○
		8	地	発達障がい者・高次脳機能障がい者等8020運動推進特別事業	(一社)豊中市歯科医師会					●	●	●	●	高次脳機能障がい者施設と連携し、施設職員への講話会、口腔ケア指導（事前研修）、入通所者への歯科健診等（実地研修）を実施しています。	講話会・事前研修 24名 実地研修 10名	昨年度の施設職員からの要望をふまえ、事前アンケートなどを工夫した。施設職員より、口腔ケアの大切さ・手入れの仕方を実際に体験することが利用者さんにとって良い刺激になったとの感想を頂いた	完

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠期	幼年期	少年期	青年期	壮年期	中年期	高年期	内容	24年度実施状況	評価・考察	今後の方向性
Ⅴ 歯や口の健康を維持・増進しよう	b 歯や口の健康づくりに関する情報提供と普及啓発	1	行	マタニティーママのデ ンタル教室	保健予防課		●							妊婦を対象に、歯科衛生士による妊娠期 からのお口の健康づくりの話や、歯みが きとデンタルフロスの実習を行っていま す。隔月に1回。	年6回62人	受講者アンケートより満足度 は高いが、受講人数が減少傾向 にあり、受講しやすさや内容な どについては検討が必要と思 われます。	○
		2	行	すくすくよい歯の教室	保健予防課			●						乳幼児期の歯科保健に関する知識の普 及、啓発(講話・健診)。3会場で実施 しています 予約制。13年度より内容 を見直し、1回2日制に変更しましたが、 15年度より、内容を維持しつつ、受講者 の利便性を考え、1回1日制に変更しま した。	年28回695人	受講数が減少傾向となってお り、内容等について検討が必要 です。	○
		3	行	高校生と作るお口の健 康づくりパネルシアタ ー(食育媒体作成プロ ジェクト)	保健予防課			●		●				幼児を対象にしたお口の健康づくりパネ ルシアターを高校生が企画・作成し、高 校の文化祭や幼児対象のイベントなどで 高校生が幼児に歯科保健啓発活動を実施 しました。((一社)豊中市歯科医師会協 力)	型紙の提供0件	型紙の希望者への配布が一定 終了しました。	完
		4	行	いきいきシニアのため のお口の健康づくりハ ンドブック	地域保健課								●	「食」を支えるお口の健康づくりに役立 つ情報を提供しています。	高年期等の地域教育活動の中で活用 しました。また、介護予防事業であ る健康カレッジでも「お口の健康づ くり体操」を実施しました。老人会 には「お口の健康づくり体操」の DVDをあらたに提供(約100枚)し ました。	作成から2年を経過しても、 DVDの提供希望も多数あり、 高齢者をはじめとした効果的 な啓発となっていると考えて います。	○
		5	地	よい歯の集い	(一社)豊中市歯科医 師会 豊中市学校歯科医会		●	●	●	●	●	●	●	口腔衛生の啓発を目的に、歯の衛生週間 (6月4日～10日)中の土曜日に、小学 校を会場に、啓発イベント、学校歯科医 による講演、歯科医を講師とする特別授 業参観等を実施。	庄内南小学校で実施。 総来場者数945人。	食育パネルの掲示などをより 工夫し、さらなる食育啓発に努 力していきたい。	◎

基本目標	基本方針	事業等			所管	新規*	妊娠 期	幼年 期	少年 期	青年 期	壮年 期	中年 期	高年 期	内容	24 年度実施状況	評価・考察	今後の 方向性
Ⅴ 歯や口の健康を維持・増進しよう	b 歯や口の健康づくりに関する情報提供と普及啓発	6	地	よい歯の高齢者 8020 表彰	(一社)豊中市歯科医師会								●	80 才以上で 20 本以上歯のある市民を対象に公募。アクア文化ホールにて受賞者を一同に会し表彰式を開催しています。	過去最高 226 名の応募があったが、当日の気象警報発令のため、表彰式は中止となった。	年々応募人数が増加しており、8020 運動がひろく市民にひろまっていることを実感できた。	○
		7	地	よい歯のコンクール	(一社)豊中市歯科医師会			●						大阪府主催の「全大阪よい歯のコンクール」の地区審査会を保健予防課と協力し、3 歳半健診を受診した幼児と保護者を対象にコンクールを実施しています。	24 年度より、北部・中部・南部からそれぞれ地区代表 1 組、地区優良 2 組を選出した。	中央審査会を突破し、全国大会へ出場された 1 組が、優秀者に選出されました。大変喜ばしいことです。	○
		8	地	豊中市民健康展	(一社)豊中市歯科医師会		●	●	●	●	●	●	●	豊中市医師会・薬剤師会とともに主催。歯科ブースでは歯科健診、歯磨指導、フッ素塗布、食育パネルの掲示などを実施しています。	24 年度は当日の気象警報発令のため、中止となった。	食育パネルの掲示などをより工夫し、さらなる食育啓発に努力していきたい。	○

Ⅳ. その他（食育関連の情報提供等）



食育推進貸出グッズ一覧

貸し出しを希望される方は、保健企画課 栄養士（6152-7309）へお問い合わせください。
使用目的によっては、貸し出しをお断りする場合があります。ご了承ください。

グッズ名、(所管)	概要
食育のぼり・旗 (保健企画課)	食育シンボルマーク・キャッチフレーズの入ったのぼりと旗。   旗：5枚、ひもつき (縦約 90cm×横約 160cm) のぼり ：50本 ポールつき (縦約 150cm ×横約 45cm)
食育ジャンパー (保健企画課)	食育シンボルマーク・キャッチフレーズの入ったジャンパー（50枚）（色：ピンク、素材：ナイロン） イベント等で、スタッフジャンパーとしてお使いください。   背面 前面
豊中市食育推進計画 パネル (保健企画課)	食育推進計画概要版（B3,カラー）12枚1組   ＊第2期豊中市食育推進計画の概要がわかるパネルです。イベントや講座のときの展示用です。

グッズ名、(所管)	概要
お口の健康づくりパネルシアター (保健予防課)	『にこりちゃんとぴかりくんの大冒険』 *「カムカムの街」や「おやつの街」などいろいろな街を通りにこりちゃんとぴかりくんが探検をして学びながら、丈夫な歯を持つ元気な子どもの国に向かって進んでいくストーリーです。 ・パネルシアター絵人形 ・パネルシアターステージ ・台本 ・演じ方DVD ※「にこりちゃん・ぴかりくんの大冒険」作成希望の方もご連絡ください。
そのまんま料理カード (保健予防課)	・ちょっぴりごちそう編 ・食事バランスガイド編 ・3皿でバイキング編 ・菓子飲み物カード (群羊社) *実物大の料理カードです。重たくないので、持ち運びしやすいです。料理を例示しながらお話しするときに使っています。
食事バランスガイド掛け図 (保健予防課)	縦約100cm ×横約120cm 布タイプ *バランスガイドについて説明するときに使います。大きいサイズなので、講義のときなどに使うことができます。巻いて持ち運びすることができます。

グッズ名、(所管)	概要
食育エプロン (保健予防課)	エプロンシアター 「早ね早おき朝ごはん」 ～生活習慣からはじめる食育～ 演じ方 DVD 付 (メイト)  「味覚を育てる食育エプロン」 ～味覚・歯と口の衛生～ (メイト) おいしく楽しく食べる ためのお口の健康づく りについてのお話です  *エプロンのポケットから色々なものを取り出して、エプロンにはりつけたりしながら話します。一人で劇のように演じることができます。幼児向けのお話に向いています。
まめつまみセット (保健予防課)	セットの内容 (6 セット) ・ 塗箸 1 ・ 割り箸 1 ・ 器 4 ・ 小豆 30g ・ 大豆 30g ・ スーパーボール 25 個 セットの他に、・キッチンタイマー 2 個 *まめつまみゲームができます。豆などを箸で器から器にうつし、制限時間内に何個うつすことができたかをみるゲームです。盛り上がること間違いなし！ 
私たちのからだをつくる食べ物のはなし (保健予防課)	パワーポイント資料 * 3 色栄養などについて学ぶことができます。小学校高学年向け、4 5 分くらいの講座に使えるシナリオつき。アニメーションを多用しているので、楽しく講座ができます。CD-ROM でお貸ししますので、全部または一部コピーして使ってください。 

グッズ名、(所管)	概要
お口の体操人形けいすけ君 (保健予防課)	・ 取り外せる歯や動く舌がついている人形です。  * 舌や口唇の体操などを指導する際に使います。
顎模型と歯ブラシ模型 (保健予防課)	・ 20×15×15cm プラスチックの顎模型 ・ 23cm プラスチックの歯ブラシ模型  * 歯磨き指導の時に使います。
口腔内カメラ (保健予防課)	小さなカメラをお口の中に入れ、9インチ程度のモニターでお口の中の状態を見ることができます。 (3台) 
よい歯のつどいカルタ (保健予防課)	B4サイズラミネート 読み札 50枚、取り札 50枚  * 平成21年度に庄内西小学校で行われた「よい歯のつどい」に展示された庄内西小学生作のカルタです。 ひらがなの読めない子どもでも取れるように、読み札の裏側に取り札と同じ絵を印刷しています。
はてなボックス (学校給食室)	* クイズをしながら食育カードを入れると?ボックスの中でくるとひっくり返り、答えが出てきます。 

グッズ名、(所管)	概要
紙芝居 (学校給食室)	* 紙芝居 A2 サイズの手づくり紙芝居 15 種類あります。  けんいち君とまさお君のふたごの兄弟が、お皿にのって野菜の国へ行きました。 そこで人参君や玉ねぎ君の話聞き、今まで野菜が嫌いによく力ぜをひいていたまさお君も、がんばってたべるようになり元気になりました。 ・ 太郎君のむし歯 ・ 牛乳のおはなし ・ 食べもの大行進 ・ はな子さんの運動会 ・ ケンちゃんのぼうけん ・ ステップ ララちゃん ・ 牛乳をのもう ・ なんでも博士のロボット ・ 行こう！栄養の国へ ・ 楽しい給食 ・ まほうのサラスケ君 ・ みんな なかよし ・ 王子様の旅 ・ 栄養ってなあに？ ・ あさごはんを食べよう
とよっぴー (豊肥) (公園みどり推進課)	2.5kg 袋 (イラスト入り) 3kg・6kg・10kg (透明袋) * 「食の循環」に関する環境教育 (食育) 授業などに使うことができます。袋詰めしたものをお渡しします。 
緑化用バーク (公園みどり推進課)	「剪定枝チップ」に少量の「とよっぴー」を混合してたい肥にしたもので、菜園・花壇等の土壌改良材として使用できます。 公益活動を目的とする団体が所有・管理する施設や公共団体が設置・管理する施設等に年間 50kg 程度まで配付します。 

グッズ名、(所管)	概要
食育推進のための安全安心ハンドブックⅡ(冊子, パネル) (保健企画課)	食中毒を予防して安全で安心な食育活動を継続的に行っていただくために、平成 25 年 7 月に作成しました。 地域のお祭りや、イベントなどで模擬店をしたり、調理実習をするときなどに活用していただくため配布します。 (配布数は応相談) ↑ ハンドブックパネル (B3,カラー) 20 枚 1 組 手洗いの方法、調理器具の洗い方など、必要な部分だけ掲示することも可能です。
消費者協会食育パネル (とよなか消費者協会)	・ なにわの伝統野菜って? (B1 サイズパネル 2 枚) ・ 大阪特産物カード (A 3 サイズ 22 枚) ・ 地産地消の推進 (A 1 サイズパネル 1 枚) ・ 大阪エコ農産物とは (A2 サイズパネル 1 枚) ・ なにわの伝統野菜について (A2 サイズパネル 1 枚) ・ 日本各地の郷土料理 (A 3 サイズ) なにわの伝統野菜って? → 地産地消の推進 → 日本各地の郷土料理 ↑ 大阪特産物カード ↑ * イベント等で展示することができます。

グッズ名、(所管)	概要
我が家の料理レシピパネル (とよなか消費者協会)	A 3 サイズラミネート 5 3 枚 * とよなか消費者協会会員が我が家の自慢の料理を持ちよって試食し、写真とレシピをパネルにしました。イベント等で展示することができます。 
お口の健康づくりハンドブックパネル (とよなか消費者協会)	A 3 サイズラミネート 2 4 枚 * お口の健康づくりハンドブックをパネルにしました。イベント等で掲示することができます。 お口の健康体操や、よく噛んで食べるメニューなどが載っています。 
まるごとおいしい食育推進ハンドブックパネル (とよなか消費者協会)	A 3 サイズラミネート 2 4 枚 * まるごとおいしい食育推進ハンドブックをパネルにしました。イベント等で掲示することができます。季節ごとのメニュー、お手軽料理、豊中市内の食育実践のヒントなどが載っています。 
手洗いチェッカー (衛生管理課)	専用のローションを手に刷り込み、通常の手洗いを行います。 洗った手をブラックライトにかざすと、洗い残した部分が白く浮かび上がります。  汚れの残りやすい箇所を目で見えて知ること、楽しみながら正しい手洗いの方法が学べます。

平成 24 年度（2012 年度）豊中市食育推進計画年次報告書

平成 25 年（2013 年）9 月

豊中市 健康福祉部 保健所 保健企画課

〒561-0881 豊中市中桜塚 4-11-1

TEL 06-6152-7309 FAX 06-6152-7328